

## 会 議 録

会議の名称		令和7年度 第1回つくば未来塾運営会議		
開催日時		令和7年（2025年）7月10日（木） 開会 午後2時 閉会 午後3時30分		
開催場所		つくば市役所4階 ミーティング室		
事務局（担当課）		教育局生涯学習推進課		
出席者	委員	中山 正巳（座長）、板谷 亜由美（副座長）、田中 雄輝 倉持 勝男、長谷川 清恵、増沢 喜良		
	その他	なし		
	事務局	課長 澤頭由紀子、課長補佐 瓜阪恵理名 主任 和田 丞珠、主事 染谷 彩乃 社会教育主事 村上和宏 地域連携教育指導員 酒井 和宏		
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	なし
非公開の場合はその理由				
議題		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業概要説明</li> <li>・ 令和6年度実績報告</li> <li>・ 令和7年度事業計画</li> </ul>		
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 主催者挨拶</li> <li>3 委員及び職員紹介</li> <li>4 座長及び副座長の選出</li> <li>5 議事</li> </ol> <p>(1) つくば未来塾事業概要</p>			

(2) 令和6年度実績報告
(3) 令和7年度事業計画
6 その他
7 閉会

<審議内容>

事務局（瓜阪補佐）：こんにちは。ただいまより、令和7年度第1回つくば未来塾運営会議を開催いたします。

なお、この会議に関しましては、つくば市附属機関の会議及び懇談会等の公開に関する条例第3条に基づきまして、公開といたします。会議録については、後日、つくば市ホームページに掲載します。皆様、どうぞよろしくお願ひいたします。

初めに、つくば市教育局生涯学習推進課長の澤頭から挨拶申し上げます。

事務局（澤頭課長）：皆様、こんにちは。本日は御多用の中、そして、お暑い中、御出席いただきまして、誠にありがとうございます。この未来塾事業でございますが、市内全中学校、義務教育学校へ学習チューターを派遣しまして、中学生を対象とした学習支援を行っているところでございます。

今年度のつくば未来塾事業につきましては、学習支援に熱意ある人材を、広く募集するために、学習チューターの募集チラシを各学園の第1回コミュニティ・スクール協議会や推進会議で委員の皆様にお配りさせていただきました。

また、昨年度開催されました未来塾運営会議の場で、皆様から頂いた様々な御意見を参考にさせていただきまして、事業の改善を図ると共に、学校からの報告を分析することによって、少しずつではありますが、より効果的な未来塾となるように改善を図っているところでございます。

一方で課題として残されているものもございます。初めて顔を合わせる生徒さんに積極的に声掛けできない学習チューターさんがいるですとか、または生徒さんでは、自ら主体的に課題を持って未来塾に臨むことができていないなどの報告も受けています。

こうした課題を受けまして、昨日行われましたオリエンテーションでは、学習チューターの方とともに、生徒の状況に応じた、よりよい関わり方について、一緒に考える時間を設けております。

今後は学校と、信頼関係が構築できる、より多くの地域人材の方に、未来塾事業に参加してもらうことが、大変重要だと思っております。

特に現在市が同様に進めておりますコミュニティ・スクールと連携することで、地域人材の確保に更につなげていくことができるのではないかと考えております。地域と学校の連携が確かなものになっていくよう、引き続き改善を重ねて参りたいと思っております。そうしたことを踏まえまして、委員の皆様から忌憚のない、積極的な御意見と御助言をいただきまして、未来塾事業を更に円滑に進めていけるようにしていきたいと思っております。

本日は委員の皆様どうぞよろしくお願ひいたします。

事務局（瓜阪補佐）：続きまして、委嘱状ですが、委員の皆様の上に配布させていただきます。お名前など御確認いただき、不備がある場合には、事務局までお申し出いただければ幸いです。

続きまして、委員の皆様にご自己紹介をお願いしたいと思います。では、名簿の順に田中委員から自己紹介をお願いいたします。

田中委員：はい。つくば市PTA連絡協議会の理事と現高崎学園高崎中学校のPTA会長を務めております、田中 雄輝です。よろしくお願いいたします。

事務局（瓜阪補佐）：名簿の順で中山様をお願いいたします。

中山委員：はい。つくば市青少年相談員連絡協議会の会長を仰せつかっております。中山でございます。生まれが旧桜村の旧栗原村です。よろしくお願いいたします。

ます。

事務局（瓜阪補佐）：倉持委員、お願いいたします。

倉持委員：青少年を育てるつくば市民の会の会長をしています。倉持です。

生まれも育ちも旧大穂町で、つくば市の中の外れ、周辺地、変化のない昔ながらの地域で生まれ育っています。よろしく申し上げます。

事務局（瓜阪補佐）：長谷川委員、お願いします。

長谷川委員：はい。つくば市地域学校協働活動推進員の長谷川と申します。

私は学習チューターを実は、6年か7年ぐらいやっております、現場を知っている人間としていろいろ、お叱りをいただくのかしらと、そのために呼ばれたのかしらとちょっと今、ドキドキしております。

青少年を育てるつくば市民の会の茎崎支部にも所属しております、高崎中学校のPTAの副会長を仰せつかっております。どうぞよろしく申し上げます。

事務局（瓜阪補佐）：板谷委員、お願いします。

板谷委員：はい。研究学園中学校校長の板谷と申します。よろしく申し上げます。本校は開校3年目なのですが、市役所のすぐそばにある学校で、小学校と中学校が隣接している学校となっております。もし機会があれば遊びにいらしてください。よろしく申し上げます。

事務局（瓜阪補佐）：増沢委員お願いします。

増沢委員：はい。教育局学び推進課、学校教育政策監 増沢と申します。

私は行政の立場から、学校の支援をさせていただいております。どうぞよろしく申し上げます。

事務局（瓜阪補佐）：ありがとうございました。続いて、事務局の自己紹介を行います。

事務局（澤頭課長）：改めまして課長の澤頭です。よろしく申し上げます。

新たな委員の皆様をお迎えしての運営会議を開けることを大変ありがたく思っております。よろしくお願いいたします。

事務局（瓜阪補佐）：課長補佐の瓜阪と申します。委員の皆様のお顔ぶれが一新されて、また新たな御意見いただくことを楽しみにしています。よろしくお願いいたします。

事務局（和田主任）：主任の和田と申します。青少年を育てるつくば市民の会の事務を担当させていただいております。よろしくお願いいたします。

事務局（染谷主事）：主事の染谷と申します。青少年相談員連絡協議会の事務を担当しております。よろしくお願いいたします。

事務局（酒井地域連携教育指導員）指導員の酒井です。私はコミュニティ・スクールとつくば未来塾を担当しております。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局（村上社会教育主事）：社会教育主事の村上でございます。私もコミュニティ・スクールとつくば未来塾を担当させていただいております。よろしくお願いいたします。

事務局（瓜阪補佐）：続きまして、資料の確認を行います。資料は、配布資料一覧のとおりとなっております。過不足がございましたら事務局までお申しつけください。よろしいでしょうか。

では次に、座長の選出に移りたいと思います。令和7年度つくば未来塾運営会議開催要項第五条の規定により、座長及び副座長は委員の互選により定めると規定されております。座長及び副座長の選出方法等につき、御意見はございますでしょうか。

倉持委員：座長及び副座長については事務局に一任してはどうかと思うのですが、いかがでしょうか。

事務局（瓜阪補佐）：ただいま、事務局案との声をいただきました。皆様よろしいでしょうか。

委員一同：お願いします。

事務局（瓜阪補佐）：ありがとうございます。では、事務局案にて、つくば市青少年相談員連絡協議会会長である中山委員に座長を、研究学園中学校の校長を務められている板谷委員に副座長をお願いしたいと考えておりますが、皆様よろしいでしょうか。

委員一同：異議なし。

事務局（瓜阪補佐）：ありがとうございます。それでは、中山座長、板谷副座長、お席の移動をお願いいたします。

事務局（瓜阪補佐）：では中山座長と板谷副座長より、一言ご挨拶をいただきたいと思ひます。

中山座長：はい。着座にて失礼いたします。

ただいま、座長の方に選任されました中山でございます。このつくば未来塾がはじまった当初からずっと委員の方をやらせてもらっています。何年目になったのかなという感じもしていますけれども、そういった経験から座長に任命されているのかなという風に思っております。議事の方、順次進めて参りますので、皆さんの御協力よろしくお願ひ申し上げます。

板谷副座長：副座長に任命いただきました板谷と申します。会のスムーズな進行に御協力のほどよろしくお願ひいたします。以上です。

事務局（瓜阪補佐）：ありがとうございました。それでは、ここからの議事進行につきましては、中山座長にお願ひいたします。

中山座長：はい。それでは本日の議題をまず確認させていただきたいと思ひます。次第でございます、議事については1番としまして、つくば未来塾事業概要、2番目としまして、令和6年度つくば未来塾事業実績報告、3番目として、令和7年度つくば未来塾事業計画というふうになっております。

それでは次第に沿いまして、1番目のつくば未来塾事業の概要について事務局の方から御説明をお願ひいたします。

事務局（村上社会教育主事）：改めまして社会教育主事の村上でございます。今年度で3年目になります。このつくば未来塾運営会議の中で、委員の皆様から様々な御意見を頂きまして、学校を訪問させていただき、つくば未来塾事業の様子を見ていましてより良くなっているかなという感覚を受けております。

また、運営会議で頂いた御意見を事業にいかすことで、子供たちの学習意欲に繋がっているかなという風に思っております。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

それでは、資料ですが、つくば未来塾事業概要について御覧いただければと思います。先ほど澤頭課長の挨拶の中にもありましたが、つくば市内及び近隣地域の大学や地域の方の御協力の下、学力向上を目的に御支援をいただいている事業でございます。目的につきましては学力向上、それから学習習慣の定着を意識して事業を行っているところです。

特に学力向上のところなのですが、生徒のつまずきの解消ということで、この未来塾の時間に子供たちが課題を持ち寄り、その課題について生徒が学習しているところに、学習チューターの方が寄り添って、課題を解消できるように関わっていただいています。

2番目の概要図を御覧いただければと思います。概要図にも示されていますように、学校と地域が連携することで、子供たちの力を育てるということも併せて目的とされています。先ほども自己紹介の中にありましたけれども、長谷川委員は、学習チューターとしても御参加頂いているのですが、ある学校に伺うと生徒が長谷川委員を待っている様子が見られました。「長谷川先生、待っていたよ。」というような声かけが生徒から長谷川委員になされていました。

私自身、学校現場にいるときから教員だけの関りで子供たちをより良く伸ばすことは難しいだろうなというところは感じていたところなのですが、そういった場面を目の当たりにして、やはりこの事業は大切なところがあるかなと

いう風を感じたところでございます。

それから3番目の対象者なのですけれども、これはつくば市立の中学校及び義務教育学校の後期課程、いわゆる学年で申し上げますと、7年生から9年生、中学校1年生から中学校3年生までを対象としております。

それから4番目の学習チューターの対象者などですけれども、つくば市内及び近隣地域の大学生または大学院生、それから地域住民の方、こういった方に御協力いただいております。昨年度の実績で申し上げますと、この後詳しい御説明をさせていただくのですが、学習チューターの登録者の方が165名。

半数は筑波大学関係の方、半数は地域の方とそういった、おおよそ分析ができるのかなという風に思います。そして、有償ボランティアということになっていきますので、謝礼も出ております。

実施に当たっては、注意事項や心構えということで、特に子供たちに直接関わる事業になりますので、生徒との関わり方や、参加するにあたっての心構え等を昨日、7月9日筑波大学の方で実施して参りました。

こういったことを通して学習チューターの方々には、心構え等をお伝えさせて頂いているところでございます。

それから5番目の実施内容なのですけれども、各学校に派遣された学習チューターが主要5教科を基本に生徒に支援をしています。

実際の学習形態というところなのですけれども、各学校の実として、多少特色はあるのですが、基本的にはですね、生徒たちが自習のような形で、参加を希望した生徒が集まっているところに、学習チューターの方が寄り添って、学習を生徒と一緒に進めていくような形でございます。

6番目の実施時期及び実施時間ですけれども、こちらも各学校の実態に応じて様々にはなるのですけれども、夏季休業中に行う学校は、1日大体おおよそ、2時間から3時間で実施しています。それからつくば未来塾は7月から1月末日の期間で実施をしておりますので年間を通してですね、平日の放課後に

バランスよく時間を取って実施している学校やテスト前を中心にそういった時間を割いてつくば未来塾を実施しているというようなところも見受けられます。

事業概要については以上になります。

中山座長：はい。では何か質問はございますでしょうか。ないようでしたら、次の令和6年度 つくば未来塾事業の実績を報告してもらいます。

事務局（村上社会教育主事）：はい。令和6年度つくば未来塾事業実績から御説明をさせていただきます。

まず一番のところからですが、実数と経年比較になります。昨年度2回目のつくば未来塾運営会議でも御説明をさせていただいたところなのですが、新任の委員の方もいらっしゃいますので、改めて御報告をさせていただければと思います。

令和6年度の実績としましては、延べ実施時間が1,550時間になります。実施延べ日数が219日。全チューター延べ人数が852名。学生協力人数が400名。

筑波大学の大学院生を含む延べ人数が315名。他大学延べ人数が85名。一般協力延べ人数が425名。参加生徒延べ人数が9,150名。学習チューターの登録者数が165名となっております。

また令和6年度の中学校、義務教育学校の在籍人数が、お調べしましたところ6,622名です。おおよそ参加生徒実人数が1,824名になっておりますので、3分の1まではいかないのですが、多くの生徒が参加している状況になります。

また、協力していただいているチューターの方の内訳ですが、欄外にお示しをさせていただいております。筑波大生及び筑波大学院生が85名、他大学の学生さんが16名。一般の方が64名ということで御協力をいただいております。学校と地域の連携という意味合いにおきましてもこうした実績のある事

業ではないかなという風に考えております。

続きまして、平均値と経年比較について御説明をさせていただきます。

こちらにつきましては、チューター1人当たりの活動日数、それから1日当たりのチューター数、1人当たりの担当生徒数、生徒1人当たりの参加回数、1日当たりの参加生徒数を経年で表にお示しさせていただいておりますけれどもこちらに関しては、多少増減はありますが、特段大きな変化はないと分析しております。昨年度のこの未来塾運営会議の中で、参加生徒1人当たりどれぐらい参加回数があるのか知りたいなということで、御助言いただきまして、新しく、参加生徒1人当たりの参加回数ということでおよそ5回とお示しをさせていただいております。

続きまして3の予算執行について御説明をさせていただきます。

決算額の説明をさせていただきますが、一番大きな支出を占めるのは、報償費、342万3,900円となっております。こちらに関しては、枠の下にございますが、学習チューターの方にお支払いする謝礼、1時間当たり2,200円となっております。こちらの総額が340万8,900円、また、この運営会議の皆様にお支払いする謝礼が1万5,000円となっております、この合計した額が決算額となっております。

また、旅費につきましては740円と、つくば未来塾運営会議の委員の方にお支払いする旅費ということで、決算額としてお示しさせていただいております。

続きまして需用費となります。こちらに関しましては、事業を実施する各学校1校当たり、消耗品代2万円、テキスト代2万円の合計4万円を市から支出しております。ですので、こちらの支出の合計額というような形になっております。18校分なので掛ける18ということになります。

また役務費に関しましては、学習チューターが学校に向かう途中や学習支援中、事故に遭った際の傷害保険に入っております、この保険の傷害保険料と

なっております。こちらの予算全体の執行率が、当初予算ベースでは 98.86% の執行となっております。

またこのつくば未来塾事業に関しましては、県と国の方からの補助金ということで、地域の教育支援体制など構築事業費補助金というものを活用させていただいております。こちらに関しましても、今年度の国からの交付決定額が 287 万円。また、事業の実績に基づいて、実際に新歳入として支払われた額は、266 万 7,000 円となっております。一般会計、市の単独の予算から歳出は、決算額から交付確定額を引いた 137 万 4,323 円。これは欄外に書いてある数字でございますけれども、こちらが市の歳出となっております。

私の方から実績については以上となります。

続いてアンケート結果のところなのですが、こちらのオレンジのページを御覧いただければと思います。結果について御説明をさせていただきたいと思えます。

まず一番上のところですが、生徒の学習上のつまずきの解消について学習意欲の向上に関して、学校と地域の連携に関してというところですが、アンケートの数値を見ていただきますと、おおむね、8割ぐらいいは超えておりまして、事業の成果としては良い方向に向かっているのではないかと考えております。

一昨年度までは、実はアンケートの質問項目が左側の質問項目、古いものなのですが、参加する前よりも学力が身についたと思うかですとか、生徒の学力向上を図る上でつくば未来塾の実施が有効だと思うかというように抽象的な項目でしたので、もう少し具体的な形になるように、これまでわからなかった問題が、つくば未来塾を通してわかるようになったかとか、つまずきの解消に繋がったかということで、焦点を絞るようなアンケート項目に変更させていただいております。

学校や学習チューターの方からは、目標が明確になったところは、あるの

で、支援はしやすかったというお声はいただいております。

それから生徒の学習上のつまずきの解消についてなのですが、意識の高い生徒は、先ほど御紹介させていただいたのですが、生徒自身が課題について整理をしまして、未来塾が始まると同時にチューターの方をつかまえ、ここわからないんですけど、みたいな形で、参加してくれています。それが理想的な形かなという風に思いますが、つまずきの解消という点でもそういった生徒のニーズに応えられていて成果として得られているかなと感じています。

それから学習意欲の向上についてですが、生徒と学習チューターの関わりの中で、地域の方や年齢の近い大学生などの新たな刺激が関わることによって、学習意欲の向上が見られるようなきっかけが、あったかなと思います。実際につくば未来塾を実施している時間に我々もお伺いをさせていただいたのですが、楽しそうに学習している様子を見られましたので、効果があったかなと感じています。

例えば、つまずきに関わる場所ももちろんそうなのですが、筑波大生が言っていることで、私もすごく勉強になったなと思ったのですが、「皆は英単語を何回書いたら自分で覚えられるってわかっている？」ということとを問いかけていて、「私は 13 回書いたら覚えられるということ自分でわかっているから、学習の効率がいいのだよね。」という話をしていました。そういったことも、考えてみると、効率良くなるかもしれないよ、ということで、生徒たちは納得した表情をしていました。

そういったことですか、学習習慣の定着に課題があるということで、相談を受けた生徒にも「今、一緒に学習していて、わかったところがあるよね。それで、次の新しい課題に取り組まないで、今日はこれでいいから、明日も同じ課題に取り組んでごらん。そしたら、わかるところだから、多少前向きな気持ちで学習に取り組めるかもしれないよ。」というアドバイスをしてくれていた場面を見て、こういったこともすごく有効だなというふう感じていたところ

です。

それから学習だけでなく、実は昨年度のこのつくば未来塾運営会議でも話題に上がったのですが、せっかく学習チューターの方、大学生もそうですけれども、地域のいろいろな御経験をされている方が参加していただいているので、学習チューターの方の御自身の人生の経験ですとか、進路選択アドバイスとか、あるいはその中学生にありがちだと思うのですが、今やっている勉強が将来どんな風に繋がっていくのかなという見通しを持つことで意欲が高まるように、実は今私がこんな仕事をしているのだけど実はこの数学の力がこの部分の仕事に繋がっているのだよ、ということをお話していただいている学習チューターの方もいらっしゃったので、そういったこともキャリア教育の視点から、非常に有効だなというふうに思いますし、このつくば未来塾運営会議の中でそういった御意見をいただきながら、学校の先生や学習チューターの方を通して私からお伝えできましたので、そういったところも有効だったかなと思います。

つくば未来塾に参加した生徒で、同じような話ですけども、進路選択に悩んでいたところがあったようなのですが、学習チューターの方が、自分の経験とかを話してくれたことで、前向きに進路選択をしようと思えることができた。ということ、学校の先生が話してくれたこともありましたので、そういった意味でもすごく有効かなと感じているところです。

学校と地域の協働連携に関してという3番目のところなのですが、そちらの資料もお示しはさせていただいておりますが、筑波大学の関係者が多く参加していただいております。それからその一方で、一般の方御自身の知識や御経験を生徒のために伝えたいということで、前向きに考えておられる方が非常に多くいらっしゃってですね、これは特に地域の方なのですが、こういう方のリピート率が多くありまして、例えばキャンセルが発生したときにその地域の方とかにお願いすると、快く引き受けていただけるようなところがありまし

た。

また、今年度の学習チューターの方の年齢分布を分析してみたのですが、今のところ合計 151 名で 30 歳までの方が 85 名。30 歳から 40 歳の方が 4 名。40 歳から 50 歳までの方が 9 名。50 歳から 60 歳までの方が 13 名。60 歳から 70 歳までが 20 名。70 歳から、上は 20 名ということで、合計 151 名の御登録をいただいております。学生の方と地域の方とで半々くらいの割合で活動していただいているのかなと感じます。

それから、最後 4 番目の課題と対応についてというところなのですが、昨年、学習チューターだけには、つくば未来塾の時間を任せられないということやつくば未来塾へのメリットを感じられないなどの御意見も実は一部あったのですが、こういったつくば未来塾をやっている学校は、例えば長期休みに入ったタイミングでつくば未来塾を設定して、子供たちの生活のリズムを崩したくないということを意図としてやってくれてはいたのですが、結構多い人数になってしまって、教室いっぱい子供たちがいるみたいな状況でしたので、なかなか学習チューターが専門的に学校に行って出入りしているわけではないので、そういったところの難しさがあったかなというふうに思います。当課としましては基本的には、子供たちの希望制で、少人数の未来塾を推奨していますということでお伝えしていたところ、そういったところも、学習形態の工夫というのが見られてきています。あとは学習チューターの質の向上については、課題があるのですが、先ほど御紹介させていただいたように、長谷川委員が少人数グループを作って、「この部分でわからないところある子はおいで」と言ってきめ細やかに御指導をいただいているチューターの方もいらっしゃるのですが、一方でなかなか生徒たちから積極的に質問が来る場合だけとは限らないので、生徒に声かけられない学習チューターの方もいらっしゃるというのが現状でありました。

昨日ですね、つくば未来塾のオリエンテーションを実施してまいりました。

私から「全く生徒から質問が出なかったとき皆さんどうされますか」という投げかけをしまして、近くの人とお話をさせていただきました。そうしましたら様々な御意見が出てきまして、情報共有ができていたかなと思いますし、あと何回か御参加いただいている学習チューターの方が全体に向けて、「最初から子供たちから質問はこないから、こっちから声をかけて5人に1人ぐらいは、ここわからないんですって言うてくれる子がいるからそういうことが出た瞬間にそれがどンドンどンドン広がっていくので、そういったことを試されるとよろしいかもしれません」といったお話をいただいたり、あるいは私が教員の立場から、例えば中学生は文房具が大好きなので、例えば、この筆箱の中に、剣のような大きい文房具とか入っていたら、それはその子がすごく気に入っているものなので、「それかっこいいね」とか、そんなことをもしかしたら1つのきっかけになるかもしれませんとか、生徒の机の脇を通ったら、パッとノートを隠したりとか、タメ息をついていたとか、そういったことも、もしかしたらサインとして出されているかもしれないので、見ていただけるとありがたいですということで、恐縮しながら私の方でも学習チューターの方々にお伝えさせていただいたところです。

そういったことを少しずつ広めていって、昨日のオリエンテーションに参加してない学習チューターの方にも、そういったことを伝えていきながら、子供たちのよりよい学びにつなげていければなど考えている次第です。

アンケート結果については以上となります。

中山座長：はい。今、村上さんから説明がありました。実数と経年比較の数字が少し見づらいと思うので、工夫をしてほしいと思います。

令和6年度の事業について何か、御質問はございますでしょうか。

中山座長：倉持委員どうぞ。

倉持委員：私は、初めてこの会議に参加させていただくので、初歩的な質問になってしまうのですが、この事業というのは学校、例えばいろんな教科のス

ケジュールを組んで、そこに学習チューターさんと呼んで、参加したい子供たちが参加するということですか。

事務局（村上社会教育主事）：そのような形ですね。流れから申し上げますと、つくば未来塾をスタートしますということで当課からアナウンスさせていただきまして、この時期にやりたい、何時間やりたいなどの予定等が各学校から当課に提出されます。学習チューターの方を何人配置して欲しいと御連絡があります。その後に学習チューターの方に、チラシ等で呼びかけをさせていただきまして、学習チューターの方が集まりましたら、各学校の希望に沿って、学習チューターの方を配置していくというような形になります。

倉持委員：その呼びかけについては、各学校ではなくて事務局が行うのですよね。

事務局（村上社会教育主事）：はい、そうです。

倉持委員：あと、この実績を見ると年々増えているので、この事業の意義があるというのはわかるのですけれども、やはり全体の数字で、学校によって結構ばらつきがあるのではないかなと思うのですけれども、このつくば未来塾に積極的に参加している学校と比較的少ない学校と、その辺の感じというのをどのように受けとめているのかというと、どうしてそういうばらつきが出てくるのかということが考えているのかを聞かせてください。

事務局（村上社会教育主事）：ありがとうございます。

中山座長：村上さんの方で答えるのは大丈夫ですか。

事務局（村上社会教育主事）：はい。基本的には、各学校に基準として 90 時間の学習チューターの配置ということをお示しさせていただいております。

ただおっしゃるとおり、各学校によって多少のばらつきがあるかなと思っています。これはやはり学習チューターというかつくば未来塾を実施することによって、効果を非常によく感じているというところは時間も多く実施していただいているかなと思うのですが、共通するところだと、私の個人的な感想には

なってしまいますが、やはり少人数で希望している生徒がきているというところ、その学習形態の体制は効果があるのかなと思います。ある学校では夏休みの生活リズムを崩したくないというところの意図がありまして、たくさんの人数をつくば未来塾に参加するように呼び掛けたのですが、やはり学習をその時間にしたいという気持ちで来ている生徒とそうでない生徒が混在しているので、そこで効果が見えづらいところがあるかなと思います。

あともう1つは、やはり学習チューターの方が学校の先生と密に連携として、この子たちがこういうところ課題だから、こんな支援をして欲しいという連携をとってやっている学校は、非常に効果的な部分が感じられるかなと思います。

中山座長：村上さん、昨年度は学校ごとの実施時間の資料を付けてくれていますよね。

事務局（村上社会教育主事）：そうですね。昨年度、実はその90時間という基準の時間をもう少し幅を持たせて110時間まで伸ばす学校とそうではない学校ということで御提案するというところもありましたので、資料として載せさせていただいたのですが、今回はその資料はお示ししておりませんでした。申し訳ございません。

中山座長：学校によって学生の学習チューターから見ると、高崎中学校や荃崎中学校など、駅周辺から遠い学校は交通の便でなかなか行きづらいというところもありましたよね。

事務局（村上社会教育主事）：そうですね。そういったところがやはり課題としてありまして、筑波大学関係とか大学生関係はどうしても自家用車を持っていないとやはり、駅周辺の学校にしか行けないという課題もあります。ただオリエンテーションですとか、あるいはつくば未来塾に行った先でお伺いしたときに、お願いできればありがたいですとアナウンスはしてきているのですけれどもなかなかそこは難しいところがあるなと感じています。

中山座長：せっかくなので、学習チューターとして実際に参加されている長谷川さん、いかがですか。高崎中に参加されているのですか。

長谷川委員：はい。高崎中も参加しています。他にも何校か参加させていただいております。7～8校くらいでしょうか。

事務局（村上社会教育主事）：いろんなところでやっていただいています。

長谷川委員：高崎中はおかげさまで、参加生徒も多いですし、学習チューターの方もたくさんいます。昨年までは筑波大生は1人もいないかなという印象でしたが、実は今年はぜひ一緒にみたい近所の筑波大生に声をかけておりました。昨日、たまたま高崎中の学習チューター名簿を拝見しましたらちゃんと名前が載っていたので、「よし、応募してくれた！」と思いました。高崎地区の学生さんにも、筑波大生ではないですが優秀な方はたくさんおりますので、今のうちに声をかけておこうかなと、思っているところです。

中山座長：はい。ありがとうございます。現役の中学校の板谷委員は、実績報告についてはいかがですか。

板谷委員：本校もだんだん人数が増えてきているので、つくば未来塾でお世話になる子供たちも多くなってきています。昨年度は、夏休み中で部活が終わってから、未来塾に参加して勉強して家に帰るという子も多かったです。

あとは11月は3者面談を実施するときに、面談の子は時間になったら、保護者と一緒に担任と面談するのですが、それ以外の子たちは、つくば未来塾でお世話になるという感じで、参加している子がいました。子供たちがいろいろ自分でワークを進めたりするのに、わからないことを聞いたりすることができて、よかったという感想を多く持っておりました。

中山座長：あと、令和6年度の事業報告について何か御質問ありますか。はい。田中委員。

田中委員：はい。基本的なところなのですが、課題のところですが、学習チューターだけには、任せられないということなのですが、これという

のは、誰か先生がいて、サポートで学習チューターさんがいるのではなくて、その時間は学習チューターさんをお願いしますみたいな感じなのですかね。

事務局（村上社会教育主事）：学習チューターの方に任せている学校もあります。もともとなのですけれども、自分で調べていく中で、東京都の三鷹市がコミュニティ・スクールの先進地なのですけれども、コミュニティ・スクール協議会という話合いの場で、子供たちを地域や学校でどのように育てていったらいいかという話をしているわけなのですけど、そこで学習支援がすごく大事だよねという話題になって、地域でもそういったことを応援していきたいよねというところから地域未来塾という事業になったと聞いております。つまり、その学校も地域も信頼している方が学習チューターを担っていて、信頼して任せているという状況があるのですが、つくばの場合にはまだそこまでたどり着いてなくて、広く募集して来ていただいた方を配置する形になっていますので、つくば市の規模ですと、やはりそういうことをしていかないと、学習チューター的人数がそもそも足りないというところもあるのです。ですから、長谷川委員が先ほどおっしゃっていただいたように、それぞれの学校で核になる学習チューターの方がいらっしゃって、大学生に声かけておいたからというような繋がりが、今後どんどん広がっていくと、さらに事業としては、子供たちに良いものを提供できるかなと思います。

長谷川委員：つくばは、まだまだと今おっしゃいましたけど、高崎中は先進地の例に近づいています。本当に良い感じですよ。

田中委員：つまり、学習チューターだけに任せられる場合もあれば、本当に先生がいて、ちょっとサポートも入りつつというところもあるんですね。

長谷川委員：高崎中はすでに私達に任せてくださっています。出席確認も私達学習チューターが行っています。校舎の4階で実施していて、1階の職員室に教室の内線を利用して出席の報告をしています。出席状況を見て、今日は7年生が手薄かもしれないと思ったら、9年生担当のチューターさんに移動して

いただいたり、この教科で困っていそうだと気づいたときは、その教科に長けているチューターさんに見守りをお願いしたり、臨機応変に動いております。先生方も、私達に自由にやらせてくださっていて、お互いの信頼関係が良好だからこそ思っております。

また、私が他にも数回参加させていただいている学校ですと、顔見知りになったからか、好きな教室に行ってもらって構わないですと、お任せいただいたりもします。

事務局（村上社会教育主事）：長谷川委員のお人柄もあると思うのですが、場合によっては教員も入って一緒に支援した方が効果的だというお考えの学校もありますし、私事で恐縮なのですが、私は保健体育の教科が担当だったので、学習チューターの方がいらっしゃったら、5教科の先生たちにはテストの丸付けとかをしておいてもらって、学習チューターの方がせっかくいらっしゃっているので、子供と学習チューターの方をつなぐみたいな役割を私が担っていて、そうするとやはり、いろいろ教えるのは上手なので、効果的などころもありました。各学校によって学習チューターの活用の仕方は様々かなと思います。

田中委員：その話を伺うと、これはケースバイケースなので、課題ではないのかなと思ひまして、学習チューターの方に任せたほうが良い場合もあるし、先生と協力してやったほうが効果があるという場合もあるのであれば、課題として挙げるよりは、そこを柔軟に対応できるような組織として、継続したほうがいいのかと思った次第です。あと、教員であまりメリットを感じられない方がいるっていう御意見もあるみたいなのですが、もう少し深掘りして、どういったところが具体的にネガティブになってしまっているのかなっていうのが気になったかなというところです。

事務局（酒井地域連携教育指導員）：今年は、ほぼないのですが、夏休みの最初とかに全員参加が原則みたいに行っている学校がありました。

今はほぼ、希望する子が来てやっているのので、学習意欲も高いし、集中してやっている子が多いのですが、夏休みに入って4日とか5日間、全員参加しようねと言われて来ているので、モチベーションが上がらないという子もいました。

どうしても、おしゃべりも多くなってしまう。結局、学習チューターに任せきれないで、やはり教員が入って子供を指導していかないと、成立しないようなところがかつてはありました。そうなってしまうと課題になってしまうし、教員が負担を感じて、無理してやらなくてもいいのではないかみたいな雰囲気は確かにあったのですが、ほぼほぼ、今はそれがなくなってきて、やりたい子が登校してきて学習するですとか、あるいは、平日やっているところは、放課後残って、時間までやっていくというような流れにはなってきています。最近では、随分雰囲気も良くなってきていると思います。

田中委員：要は休みに入ったのに、これが補習授業になってしまうみたいなことですね。よくわかりました。

中山座長：私の方からアンケートの結果ですけれども、下の方、生徒の方の回答ですが、「学習チューターに勉強を教えてもらう時間は楽しかったですか」という項目です。これが、75パーセントまで落ちてしまっていますよね。この質問項目は毎年同じですか。

事務局（村上社会教育主事）：「先生や学習チューターに教えてもらってよかったか」という項目が古い項目になります。新しいものが、「学習チューターに勉強を教えてもらう時間は楽しかったですか」となりますが、この質問項目については、内容はそれほど変わりません。

中山座長：生徒の回答が86パーセントだったのが、令和6年度は75パーセントに下がっているのが気になりますね。だから、この質問そのものは一緒ですよ。

事務局（村上社会教育主事）：そうですね。変わらないですね。

中山座長：わかりました。回答する生徒によっても違うでしょうからね。

増沢委員：私の方からもよろしいですか。アンケートのことについてお尋ねしたいのですが、このアンケートは、毎回、1回参加するたびに、アンケートをとっていらっしゃるのですか。

事務局（村上社会教育主事）：いえ、まとめて、アンケートの方を作っています。ただ、子供たちに全員にとっているというわけではなく、抽出した生徒にアンケートをとっている形です。

増沢委員：紙でアンケートをとっている感じですか。

事務局（村上社会教育主事）：昨年度までは、紙媒体と、あとはQRコードに織り込んで2つの方法をとっていたのですが、学校の御意向等も踏まえて、今年度からすべてQRコードで、アンケート取るという形で進めています。そちらの方が、集約できる人数も増えるかなということで進めております。

増沢委員：可能かどうかわからないのですが、一応提案として例えば、子供の中には、学習チューターの方に、「わからないです」と言えないお子さんなんかもいるのかなと思うので、参加した度に、学習チューターに「関わりましたか」とか「質問できましたか」等の項目で生徒の回答があると、それを次の日、学習チューターが見て、この子は聞きたかったのだけどできなかったのだろうとか。そのような見取りができれば、その子に学習チューターの方から声をかけていくことができるのかなと思います。また、学習チューターと関わる中での感想みたいのをもらえると、学習チューターの励みになり、次の日からその生徒との関係もより一層深められていくのかなと思いますので、アンケートをうまく生かして、学習チューターの支援にいかしていけるような形にできたらと思ひましてと提案をさせていただきました。

事務局（村上社会教育主事）：ありがとうございます。現状だと各学校のつくば未来塾の事業が終わったタイミングで御報告いただいていますので、その都度フィードバックできると、よりよいかなどお話を伺って思ひました。検討さ

せていただきたいと思ひます。

中山座長：はい、よろしいでしょうか。それでは令和7年度事業計画につきまして、御説明をお願いします。

事務局（村上社会教育主事）：それでは令和7年度つくば未来塾事業計画ということで、資料を御覧いただければと思ひます。

まず、予算措置から御説明いたします。本年度当初予算額に関しましては、全体で493万2,000円となっております。その中で一番、多く占めるのは、学習チューターの謝礼などに当たります。報償費、441万9,000円となっております。昨年度の予算の438万6,000円より増額しております。こちらに関しましては、今年度、今までのつくば未来塾の事業にプラスとして、学校に足が向きづらい生徒向けに市役所の会場でのつくば未来塾を予定しております、その分が増額になっております。

また、続きまして旅費に関しましては、今年度、予算額が2,000円となっております。続きまして需用費ですが、今年度、43万2,000円と減額になっておりますけれども、こちらは昨年度の実績に基づくものになります。役務費に関しましては、本年度予算額が7万9,000円、こちら学習チューターの傷害保険料となっておりますが、昨年度の予算と同様となっております。

続きまして歳入について御説明をさせていただきます。歳入に関しましては、事業報告で申し上げましたように、国及び県の地域の教育支援体制等構築事業費補助金が活用されております。昨年度の交付決定額が266万7,000円でしたが、今年度、県の方から補助金の上限として内示が年度当初に出ています。

こちらが272万6,000円となっております。この272万6,000円に関しまして、令和6年度の時点で、市の方から必要経費を県の方に報告いたしまして、その結果を受けて、内示される金額でございます。こちらにつきましては、市の要望がそのまま通るというわけではなくて、国の予算の方にも限りがございます。

ますので若干減額されて、内示されていますが、この金額が 272 万 6,000 円と  
なっております。

またこの補助金額に関しましては原則として、補助対象経費の 3 分の 2 と  
なっております、残りの 3 分の 1 は、市の経費から支出が出ます。予算措置  
に関しては以上になります。

学習チューター募集事業概要については、募集期間は 5 月 8 日から 6 月 13  
日の金曜日まで行ってきました。募集方法なのですが、先ほど倉持会長からも  
御質問ありましたけども、市役所を含む公共施設 36 ヶ所にチラシを配布の  
上、ホームページ、広報紙等でも周知の方をさせていただいております。応募  
方法ですが、つくば市ホームページの申込フォームで御応募をいただくか、個  
人登録票という申込用紙があるのですけれども、そういったものを生涯学習推  
進課まで、持参または郵送ということでお持ちいただいております。募集状況  
に関しましては先ほどと重複しますけれども、7 月 3 日現在で 151 名の学習  
チューターに御応募いただいております。昨年度からは 14 名減となっております。

学習チューターの配置校の決定は 6 月上旬に済ませておまして、今後キャン  
セル等が出てきた際に 2 次募集が必要と判断される場合には、2 次募集を追  
加でかけるというような流れになってます。

3 番目の実施期間ですが、7 月 7 日から 1 月 27 日までということで、実施  
計画を基に作成しております。オリエンテーションにつきましては先ほど申し  
上げたとおり 7 月 9 日、昨日、実施して参りました。つくば未来塾オリエン  
テーションの周知内容については、資料に書かれているようなことをお伝えし  
てきたところでございます。

最後に事業の評価検証方法ということで、アンケートですとか、担当教員の  
意見ですとかそういったもので検証を進めていきたいと思っています。こう  
いった実績報告につきましても、令和 7 年度第 2 回目のつくば未来塾運営会議

の中で御報告させていただければと思っております。つくば未来塾会議が3月中旬あたりを予定しております。私の方からは以上になります。

中山座長：はい。村上さんの方から説明がありました。

私の方からいいですか。需用費なのですが、43万2,000円で昨年度の決算が53万8,583円となっていますが、今年度の予算は大丈夫ですか。

事務局（村上社会教育主事）：需用費ですよ。主にテキスト代ということで、御購入いただいているものは例えば私立の過去の問題集ですとか、そういったものを御購入いただいているのですが、予算としては足りているということで、この金額になっております。

中山座長：実績だと53万8,583だと思うけど大丈夫なのかな。実績として足りていれば問題ないと思いますけどね。

長谷川委員：これは、過去問を購入するような予算ですか。

事務局（村上社会教育主事）：私立や県立の過去問ですとか、あとは子供たちが使う用紙とかそういったものに使っていただいているものです。

長谷川委員：見たことがないですね。あと、私は例えば、古カレンダーを破いて持参し、裏面を利用したりもしました。

事務局（村上社会教育主事）：使っていただける予算なので是非、活用してもらえればと思います。

長谷川委員：また、教室内にあるホワイトボードをお借りし、つくば未来塾の活動をしていました。それから要望ですが、私たち学習チューターにとって一番あると助かるのが、教科書です。たまたま私は、在校生として娘と息子がおりますので、タイムリーな教科書があります。それを全教科ごっそり持参し、生徒の進路に合わせて何とかなっているところがあります。今、年齢分布を見ますと70代が20人も活動されていると知りました。70代の方々は、現在の教科書をおそらく触れたことがないのではと思います。そうすると教えるのも難しいのかなと感じます。教科書に沿った指導のほうが、生徒さんたちも混乱し

ないと思います。それから、実は学習チューターでも、教室の後ろの掲示板を見て過ごす方が少なからずおられます。授業参観に来ているのかしらと。私、汗かきながらやっているのに、あの方は何やっているのかと思うときもあります。でも、この方たちも教科書があれば教えることができるのではないか。いばらき電子申請なども使いこなして、応募されているくらい、いろんなところに長けていらっしゃるのにと感じます。窓際の後ろの方の席にずっと座っている人もおられます。何をしに来たのだらうと思うこともあります。生徒さんたちには、「ワークだけではなくて教科書も持ってきたほうが深い勉強につながるよ。」と声掛けしております。教える方も、「ここに詳しくやり方が載っているね」と言いやすいです。ですので教科書を用意していただくと、おそらくたくさんのチューターさんが、助かると思います。

事務局（村上社会教育主事）：1つは学校として、つくば未来塾にこのような形で関わっていただきたいという思いがあると思うので、学習チューターの方と学校とで、密に連携とってくださいというふうに学校や学習チューターの方々にお伝えしています。連携を取っていただく中で、教科書も含めてこういった教材が欲しいとか、そういったところもコミュニケーションを取っていただくとよろしいかなと思います。あとは昨日のオリエンテーションで申し上げたのですが、つくば未来塾の時間に学習チューターの方同士がコミュニケーションをとっていただくと、生徒から学習チューターの方に質問しやすい雰囲気づくりにつながる場所もあるのかなと感じます。学校側の意図というか、そういう部分もあろうかと思うので、そのあたりも、学校とチューター等で連携を取っていただくとよろしいかなというふうに思います。

中山座長：今の話で70歳を超えている人20人ぐらいいるらしいのですが、今の子どもたちからかなり年齢の離れたところがあるので、遠慮したほうがよいのではないかなという気はしますよね。もともとこのつくば未来塾事業がはじまったころは大学生等、中学生に近い年代から教えもらおうという感じだった気がし

ますよね。

長谷川委員：でも、知識豊富な方が社会科を教えている姿を拝見しますと、さすがだなと感じます。

中山座長：けれども英語は昔の英語の教科書とは全然違うので、難しいところがあるかなと感じますよね。

事務局（村上社会教育主事）：伺っていると、やはりその方によるかなというふうに感じます。

中山座長：自分から言わせてもらおうと、70歳を過ぎると、頑固おやじになるから、ある程度避けたほうが良いかなという気はします。

ただ、長谷川さん言われたように、歴史とかそういうものに関しては、昔から本当に身近に感じて、自分が感じてきた話かもしれないからそういう、ことについては、興味を持たせるためには良いかなと感じはしますね。

田中委員：先ほどの、長谷川さんみたいなベテラン学習チューターの方にも、予算が取れるか取れないかというのはわかっていないようでしたから、学習チューターに向けて、このような教材があるとよいなどのアンケートを取るとよいのではないかなと感じました。もし、ある程度その傾向が見えれば、説明会のときに、こういったものは予算として取れるので、申請してくださいみたいな感じでアナウンスできるとも思いました。

中山座長：アンケートの設問の例文とかにのせておくと良いかもしれませんね。

長谷川委員：今まで、他の学習チューターからそういう、教科書があると助かるというような要望ありませんでしたか。

酒井地域連携教育指導員：教材に関してはないですね。ホワイトボードを用意して欲しいとかというのはありました。先ほどの話ではないのですが、筑波大学の元教授の方で70歳を超えているのですが、ホワイトボードに説明を書いて説明した方もいました。何か例を挙げればきっとそういう話も出てくるのかも

しれないですね。教材の視点でのアンケートは取っていなかったので検討したいと思います。

長谷川委員：未来塾の後、学習チューターと先生とで話し合いをする時間がある際、「今日はどうでしたか、何かありましたか。」と聞いてくださるのですが、「教科書があると助かります。」という要望を伝えたことがあります。

でも、「そうか、教科書ですね。」で終わってしまうのです。チューター同士では、「教科書あると助かるね、私持っているから、使うことがあったら言ってくださいね。」という会話をしたことがあります。今年度から教科書が変わり、実は本屋さんで教科書を買おうかなと思っているところです。自分の娘が今年中学3年なので、今年の中学3年生の分はあります。今回それを持参し、中学1年と2年の新教科書を買おうかしらと。

田中委員：せめて、教科書ぐらいは、先生たちが使うような赤本は必要ないと思いますけどね、あらかじめ予算を組んでおいてもらったほうが良いですよね。

事務局（酒井地域連携教育指導員）学校に教科書1セットでは足りないですかね。学習チューターの方に1人1冊は難しいと思います。

長谷川委員：いえいえ、1人1冊は必要ないです。「この教科書を学習チューター間で使って」とお借りできたら、とてもありがたいですね。

だから、チューター用にわざわざ買わなくても、学校の教科書を拝借する形で十分です。たとえば数学でいいますと、教科書に書いてある例題を参考にし、一緒に解き方を考えながら進めていけます。生徒さん達からも、「なるほどそういう意味だったのか。」という感想もよくもらえます。帰宅後の復習の中で定着もすると思います。

中山座長：確かにそうですよね。例題すら分からないと、教え方も分からないですよ。

長谷川委員：そういえば「思い切ってチューターさんに質問したのだけれど、

ちょっと理解できなくて。でも、わかりました、ありがとうございました。と言ってしまった。」と感想を言ってくれたやさしい生徒さんを思い出しました。教科書があれば、視覚的に教えてあげられるなど。

中山座長：予算大丈夫なのかな。

事務局（澤頭課長）：会長に御心配いただいているとおり、数字を見ると今年足りなくなってしまうような感じがいたします。昨年度と比べますと昨年の報償費の決算には、本年度の当初予算より、少し余る見込みではないかと思いますので、流用させて対応させていただこうと思っております。

ですので、執行自体には、影響はないかなと感じています。また、予算が満額確保できるように、当課としても頑張りたいと思っております。

中山座長：はい。その他何かございますでしょうか。

現場の声として長谷川さんより話出ましたが、そういう教科書の例題やプリントでもよいから例題等があると良いですね。

中山座長：そういうものがあると、教科書1セットはいらないということになりそうですね。

長谷川委員：多分7年生は例題やプリントでも十分に間に合います。ところが9年生ぐらいになると、3年間分のどこを質問されるかわかりません。たとえば高校の入試過去問の質問を受けたことがありました。数学の円の性質についてです。教科書のこのページが参考になるねと、持参した教科書を見せて理解してもらったことがありました。教室内に自由に使える教科書があるとチューターさんは助かると思います。

中山座長：それでは、予算確保に向けて動けると良いですね。

長谷川委員：すみません。よろしく願いいたします。

中山座長：その他はいかがですか。

改めて、今日は活発な御意見をありがとうございました。また3月に第2回目あるようでございますので、都合つけて参加いただければと思います。よろ

しく願います。

事務局（澤頭課長）：委員の皆様、本日は大変貴重な意見ありがとうございました。感想を申し上げさせていただいてもよろしいでしょうか。増沢委員から、つくば未来塾実施の度に感想を取って、フィードバックして関係性向上に努められたかという御意見をいただきまして、当課の事業でも、乳幼児家庭教育学級というものがあるのですけれども、5回シリーズのものなのですが、都度、やはり感想をとっておりまして本当に自由に簡単な感想を書き込んでいただいているのですけれども、確認するとこういうことも感じていたのだなというのを、指導員が感じるものがあって、次にいかすことができるというのをやっておりますので、つくば未来塾でもぜひ取り入れたいなと感じました。

また、田中委員からも、学習チューターが、こんな教材があったらいいなというようなアンケートをとるのも良いのではないかというお話もいただきました。そうだなと思いながら、今回、すごくアンケートをとるのもすごく大事ななというふうに改めて感じました。

長谷川委員がまさにそうなのですけれども、学習チューターの声を聞くのがいかに大切かというのを改めて感じることができました。逆に言うとその声をもっと聞くことができれば、よりよい未来塾につなげていくことができるのではないかなというふうに思った次第でございます。本当に今日は皆さんの貴重な御意見をいただきましてありがとうございました。

最後のお願いで恐縮なのですが、皆様の幅広いネットワークのお力をいただきまして、是非、学習チューターの強化につなげていけたらなと考えております。よろしく願いいたします。

事務局（瓜阪課長補佐）：中山座長委員の皆様、本日はどうもありがとうございました。

最後にその他としまして、第2回つくば未来塾運営会議の予定をお知らせいたします。第2回につきましては、少し先になるのですけれども、令和8年3

月の上旬を予定しております。時間や会場など、詳細につきましては、期日が近づきましたら、お知らせいたします。

では以上をもちまして、令和7年度第1回つくば未来塾運営会議を閉会いたします。皆様、本日はどうもありがとうございました。

令和7年度 第1回つくば未来塾運営会議 次第

日時：令和7年(2025年)7月10日(木)

午後2時～

会場：つくば市役所4階ミーティング室

- 1 開 会
- 2 主催者挨拶
- 3 委員及び職員紹介
- 4 座長及び副座長の選出
- 5 議 事
  - (1) つくば未来塾事業概要
  - (2) 令和6年度実績報告
  - (3) 令和7年度事業計画
- 6 その他
- 7 閉 会

令和7年度 つくば未来塾運営会議 委員名簿

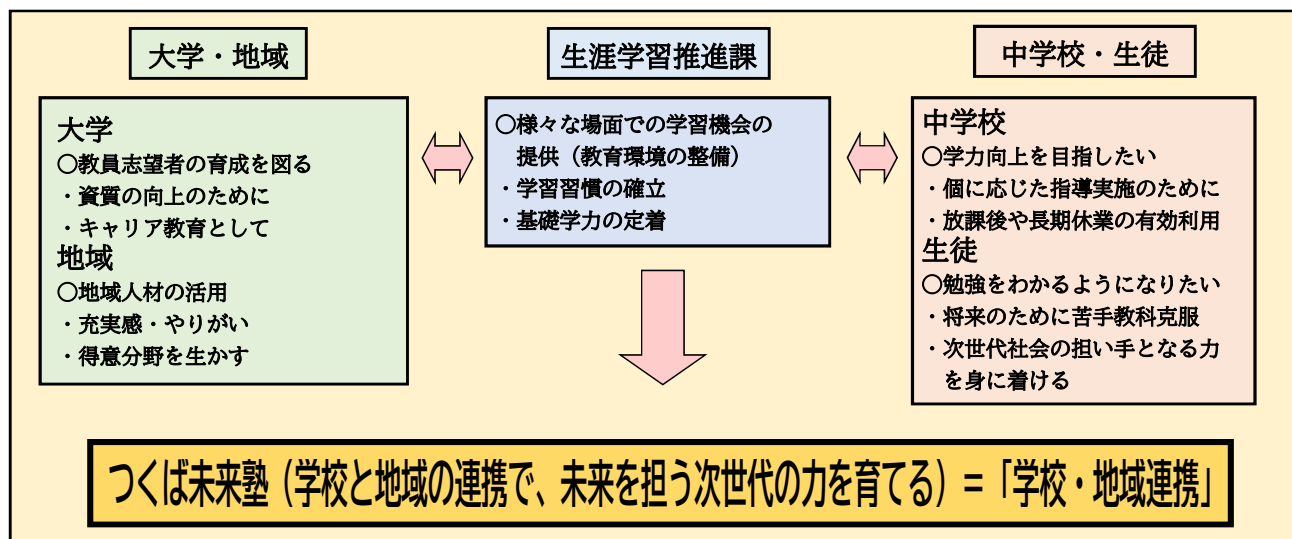
	所属・役職等	氏名
1	つくば市PTA連絡協議会 理事	田中 雄輝
2	つくば市青少年相談員連絡協議会 会長	中山 正巳
3	青少年を育てるつくば市民の会 会長	倉持 勝男
4	つくば市地域学校協働活動推進員	長谷川 清恵
5	つくば市学校長会 副会長 研究学園中学校 校長	板谷 亜由美
6	教育局学び推進課 学校教育政策監	増沢 喜良

# つくば未来塾事業概要

## 1 目的

つくば市内及び近隣地域の大学や地域の協力の下、参加する大学生、大学院生や社会人の方などを学習チューター（学習支援員）としてつくば市立全中学校及び義務教育学校（後期課程）に派遣し、学習指導・支援にあたることで、学習習慣の確立や基礎学力の定着を図るとともに、生徒の学習上のつまづきを解消し、学習意欲の向上を図る。

## 2 つくば未来塾概要図



## 3 対象

つくば市立中学校及び義務教育学校に通う、7年生から9年生までの生徒

## 4 学習チューター対象者

- (1) つくば市内及び近隣地域の大学生または大学院生（教育実習生を含む）
- (2) 地域住民（社会人等）

※謝礼 2,200 円／時間（交通費込み）。必要資格、年齢制限等はなし。

※実施に当たっての注意事項や心構えを説明する事前オリエンテーションを7月9日（水）に実施。

## 5 実施内容

各学校に派遣された学習チューターが、中学校・義務教育学校職員とともに、5教科（国・社・数・理・英）を中心に、学習の指導及び助言にあたる。

## 6 実施時期及び実施時間

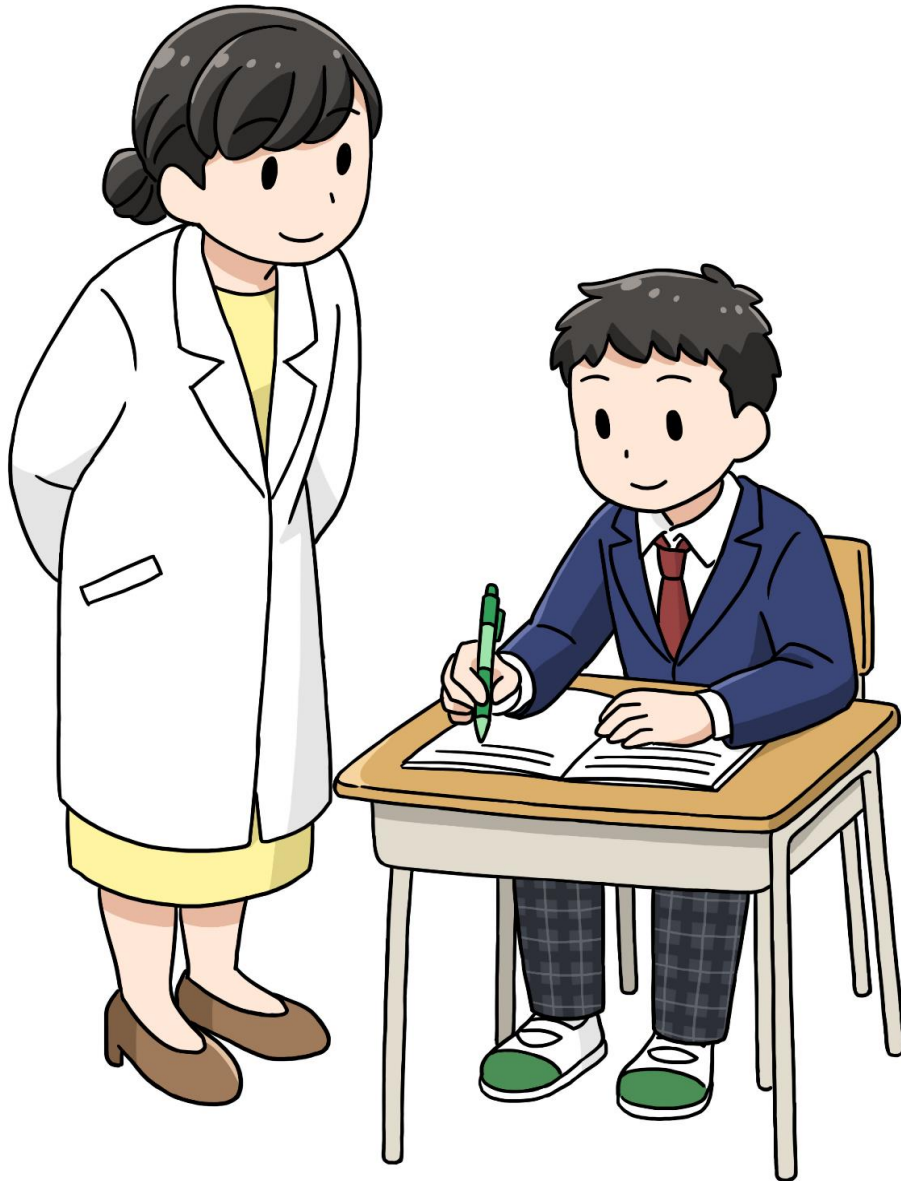
- (1) 夏季休業中に1日2～3時間程度
- (2) 7月及び9月～1月末までの平日放課後に1日1時間程度

※実施日、実施時間は学校により異なる。

概要版

令和6年度

# つくば未来塾事業実績報告書



令和7年（2025年）7月10日（木）

つくば市教育局 生涯学習推進課

# 令和6年度つくば未来塾事業実績

## 1 実数と経年比較

		R6	R5	R4	R3	R2
0	実施延べ時間（時間）	1,550	1,498	1,380	907	885
A	実施延べ日数（日）	219	194	161	123	137
B-1	全チューター協力延べ人数（人）	852	781	685	501	605
B-2	学生協力延べ人数（人）	400	344	295	272	348
B-3	筑波大生（筑波大院生） 延べ人数（人）	315	287	232	224	247
B-4	他大学生延べ人数（人）	85	57	63	48	101
B-5	一般協力延べ人数（人）	452	437	390	229	257
C	参加生徒延べ人数（人）	9,150	9,558	8,926	8,248	7,099
D	学習チューター登録数（人）	165	171	176	177	127
E	参加生徒実人数（人）	1,824	—	—	—	—

※チューター登録者（D）の内訳は、筑波大生及び筑波大学院生85人、他大学生16人、一般64人

## 2 平均値と経年比較

		R6	R5	R4	R3	R2
学習	チューター一人あたりの活動日数	5.2	4.6	4.8	3.9	4.1
チューター	一日（回）あたりのチューター数	3.9	4.0	4.4	3.0	3.8
	チューター一人あたりの担当生徒数	10.7	12.2	11.7	18.5	20.4
生徒	参加生徒一人あたりの参加回数	5.0	—	—	—	—
	一日（回）あたりの参加生徒数	41.8	49.3	51.8	55.9	77.4

## 3 予算執行率

歳出

(円)

	当初予算額	決算額	予算執行率 (当初予算)
報償費	4,386,000	3,423,900	78.06%
旅費	2,000	740	37.00%
需用費	720,000	538,583	74.80%
役務費	79,000	78,100	98.86%
計	5,187,000	4,041,323	77.91%

※報償費(学習チューター謝礼3,408,900円+運営会議委員謝礼15,000円)

歳入

	交付決定額	交付確定額
国・県補助金	2,870,000	2,667,000

※本事業は、地域の教育支援体制等構築事業費補助金を活用して事業を実施している。

補助率は、補助対象経費の3分2（国、県1/3ずつ）。

一般会計からの歳出は、決算額から交付確定額を引いた1,374,323円。

# 令和6年度アンケート結果

## 1 「生徒の学習上のつまずきの解消」に関して

・昨年度からアンケートの項目を変更することで、「つくば未来塾」の目的が明確になった。生徒が自分自身の成長に気付くきっかけになったり、教師が学習チューターと学習を支援を行ったりするうえで連携する部分が明確になった。

※数値は、「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と回答した割合

	質問項目	(新) 質問項目	R 6	R 5	R 4
生徒	参加する前よりも学力が身に付いたと思うか。	これまでわからなかった問題がわかるようになったか。	82.0%	81.3%	83.2%
教職員	生徒の学力向上を図る上で「つくば未来塾」の実施は有効だと思着につながったか。	つまずきの解消、学習習慣の定着につながったか。	89.6%	82.2%	81.4%

## 2 「学習意欲の向上」に関して

・つくば未来塾に参加することから得られる様々な人との交流から、学習意欲が向上するきっかけが生まれている。  
 ・今年度は特に、学習チューターに生徒の学習習慣の定着に向けて、ご自身の効果的な学習方法及び、キャリア教育につながる様々なお話を折にふれていただくように依頼した。教職員への聞き取りから、学習習慣の定着に向けて意欲を高め継続している生徒もいるが、自分自身の日々の学習を振り返り、まだまだ、学習習慣が身につけていないとの気付きにつながった生徒も多かった。

※数値は、「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と回答した割合

	質問項目	(新) 質問項目	R 6	R 5	R 4
生徒	集中して、又は、楽しく学習を進めることができたか。	集中して意欲的に学習を進めることができたか。	88.9%	93.8%	90.8%
	取り組んだ教科が以前よりも好きになったか。		61.9%	73.2%	69.9%
	つくば未来塾に参加してよかったか。		90.4%	91.0%	90.2%
教職員	これからも学習に進んで取り組もうという気持ちになったか。	学習習慣が身に付くきっかけになったか。	75.2%	85.5%	87.6%
	生徒は集中して、又は、楽しく学習に取り組んでいたか。			90.4%	94.2%
	参加した生徒は以前よりも意欲的に学習に取り組むようになったかと思うか。			79.5%	80.1%
	つくば未来塾を実施してよかったか。		84.9%	74.7%	83.3%

## 3 「学校と地域の協働連携」に関して

・昨年度と同様に筑波大学教職ガイダンスの中で、「つくば未来塾」の事業について説明をさせていただき、筑波大学と連携して実施した。筑波大学関係の学習チューターは85名であり、本事業において大きな支えとなっている。  
 また、学習チューターのアンケートでは、各項目とも前向きな回答をいただいている。「生徒のために、ご自身の知識を伝えたい」と考えている方が多い。社会に開かれた教育課程の実現に向けて、今後は、学校と地域人材の信頼関係が構築できるような人的配置を行ってきたい。

※数値は、「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と回答した割合

	質問項目	(新) 質問項目	R 6	R 5	R 4
生徒	先生や学習チューターに教えてもらってよかったか。	学習チューターに勉強を教えてもらう時間は楽しかったですか？	75.9%	87.6%	86.0%
教職員	学習チューターによる学習支援は、生徒にとって有効だったか。	教員以外による学習支援は、生徒にとって有効だと思ったか。	96.3%	89.0%	94.9%
学習チューター	生徒たちは集中して学習に取り組んでいたか。		97.6%	98.9%	97.7%
	学習支援はご自身のキャリアアップにつながったか。	ご自身の学びや成長につながりましたか	97.7%	91.6%	92.1%
	学習支援を通じて生徒の喜ぶ姿に出会えたか。	生徒と楽しく交流できましたか。	99.2%	97.8%	97.2%
	学習支援にやりがいを感じたか。	参加してよかったですか。	91.4%	98.9%	96.0%
	今後もつくば市の事業において、協力していただけるか。		100.0%	100.0%	95.5%

## 4 課題と対応

・学校の実態によっては、学習チューターだけに、未来塾の時間を任せられないこと。  
 ・未来塾へのメリットを感じられていない教職員の方がいること。  
 ・学習チューターの質の向上  
 ・学習につまずきを感じている生徒の未来塾への参加促進を図ること。

## 令和7年度つくば未来塾 事業計画

### 1 予算措置

#### (1) 歳出 (円)

科目	今年度当初予算額	昨年度当初予算額
報償費	4,419,000	4,386,000
旅費	2,000	2,000
需用費	432,000	720,000
役務費	79,000	79,000
合計	4,932,000	5,187,000

#### (2) 歳入

○地域の教育支援体制等構築事業費補助金（国及び県）

令和7年度県内示額：2,726,000円

令和6年度交付確定額：2,667,000円

### 2 学習チューター募集概要

- (1) 募集期間：5月8日（木）から6月13日（金）まで
- (2) 募集方法：市役所含む公共施設36か所に別添チラシを配布の上、ホームページ、広報紙で周知
- (3) 応募方法：つくば市ホームページ上の申込フォームで応募若しくは別添個人登録票を生涯学習推進課まで持参又は郵送
- (4) 募集状況：7月3日現在で、151名の学習チューターが応募（昨年度比14名減）
- (5) 配置校の決定・周知：6月下旬
- (6) その他：欠員補充等のため、必要に応じて2次募集を実施

### 3 実施期間

7月7日（月）から1月27日（火）まで（別添：2025年度 つくば未来塾事業実施計画を参照）※各学校から提出された実施計画を基に作成

### 4 事前オリエンテーション

学習チューターとしての心構え等を周知するため、事前オリエンテーションを開催予定

- (1) 開催期日・会場：7月9日（水） 筑波大学

(2) 対象：学習チューターとして配置校が決定した方

(3) 周知内容：

- つくば未来塾の概要
- 実施の流れ及び留意事項
- 当日の持参物等
- 学習チューターの心構え等（当日の頭髪・服装等、注意すべき言動、個人情報漏えい防止、欠席する場合の連絡等、注意事項全般）
- 傷害保険について 等

## 5 事業実施後の評価・検証方法

以下の方法により、事業の効果を検証し、今後の事業運営にフィードバックさせる。

- (1) アンケート（生徒、学習チューター、教職員）
- (2) 担当教員の成果報告書（検証方法、検証結果と成果、今後の課題）  
→令和7年度第2回つくば未来塾運営会議で報告予定

# 中学生の「学び」を 支援しませんか！



## つくば未来塾学習 チューター募集

※申込状況によって、2次募集を行う場合があります。

申込受付期間

令和7年5月8日（木）～6月13日（金）必着

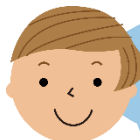
令和6年度は160名の学習チューターが活動しました

※一部アンケートからコメント抜粋



生徒

ずっとわからなかったことを解決できた



学習チューター

人に教える体験を通して自分自身の学びにもなった



先生

一人一人の「わからない」に寄り添い、丁寧に教えてくれた

「つくば未来塾  
学習チューター」とは？

生徒の学力向上及び学習習慣の定着を目的として、つくば市内に18校ある市立中学校等の1～3年生を対象に、5教科（国・社・数・理・英）の問題の解き方や考え方等についてアドバイスをします。

※申込みの手引については裏面参照

世界の  
あしたが見えるまち。  
TSUKUBA

問合せ  
・  
申込先

つくば市教育局生涯学習推進課  
〒305-8555 つくば市研究学園一丁目1番地1  
TEL:029-883-1111(代)内線4524 8:45～16:30  
MAIL:edc077@city.tsukuba.lg.jp



# つくば未来塾 学習チューター 申込みの手引

## 応募資格

- 教えることに興味がある方、または学習支援に興味がある大学生や大学院生の方
  - 地域の中学生に熱意を持って学習支援ができる一般の方
  - 中学生を教えるにあたって、服装や言動等がふさわしい方
- ※ 特に筑波地区、谷田部地区、荃崎地区、みどりの地区に車等で移動できる方、大歓迎!!

## 実施日程

- 夏季休業日 夏季休業開始日～8月31日(日)
  - 平日の放課後 9月～1月末まで(6～7月に実施する場合があります。)
  - 実施時間 1日1時間～3時間程度
- ※ 学校行事等の関係により、変更がある場合があります。  
※ 派遣日程や配置校等については、申込時の希望に基づき決定します。  
※ 夏季休業中に活動できない方も、募集しています。

## 実施内容

- 生徒の学力向上及び学習習慣の定着を目的として、つくば市内に18校ある市立中学校の1～3年生を対象に、5教科(国・社・数・理・英)の問題の解き方や考え方等についてアドバイスをします。
- ※ 具体的な教科や支援内容については、各学校で決定します。得意科目を生かしたい方は、申込時にお知らせください。

## 謝礼

- 1時間の活動につき、2,200円の謝礼(交通費込み)を支払います。謝礼額から3.063%の所得税を控除した上で、銀行口座に振り込みます。

## その他

- 活動に際してのボランティア保険は、つくば市負担で加入します。
- 学習チューターの活動内容や心構えについて、7月上旬に事前オリエンテーションを実施する予定です。学習チューターとして初めて活動する方は、必ず御参加ください。
- 応募者が多数の場合、御希望に添えない場合もありますので御了承ください。また、申込状況によって2次募集を行う場合があります。

## 申込方法

### インターネット申込みの場合

パンフレット表面の2次元バーコードを読み込むか、市ホームページで「つくば未来塾」を検索し、いばらき電子申請・届出サービスからお申込みください。

### 用紙に記入して申込みの場合

市ホームページからダウンロードするか、生涯学習推進課又は市内各交流センターで用紙をお受け取りください。必要事項を記入の上、生涯学習推進課に郵送または直接お届けください。

【様式4-1】

## 「つくば未来塾」実施アンケート（生徒用）

※当てはまる番号（1～4）のいずれかを、○で囲んでください。  
各番号の意味は下に書いてある通りです。

- 1…「当てはまる」
- 2…「どちらかという当てはまる」
- 3…「どちらかという当てはまらない」
- 4…「当てはまらない」

1 「つくば未来塾」に参加することで、これまでわからなかった問題がわかるようになりましたか。

1                      2                      3                      4

2 「つくば未来塾」に参加したことで、学習習慣が身に付くきっかけになりましたか。

1                      2                      3                      4

3 集中して意欲的に学習を進めることができましたか。

1                      2                      3                      4

4 学習チューターに勉強を教えてもらう時間は楽しかったですか。

1                      2                      3                      4

5 「つくば未来塾」で取り組んだ教科が以前よりも好きになりましたか。

1                      2                      3                      4

6 今後も「つくば未来塾」のように学校以外の方（地域の方や大学生）に教えてもらう機会があると良いですか。

1                      2                      3                      4

7 学習チューター（教室で学習サポートをしてくれた方）の印象を書いてください。

8 「つくば未来塾」に参加してよかったですか。

1                      2                      3                      4

8で回答した、理由を記入してください。

9 「つくば未来塾」に参加しての感想を自由に書いてください。

御協力ありがとうございました。

【様式4-2】

## 「つくば未来塾」実施アンケート（教職員用）

※当てはまる番号（1～4）のいずれかを、○で囲んでください。  
各番号の意味は下記の通りです。

- 1…「当てはまる」
- 2…「どちらかという当てはまる」
- 3…「どちらかという当てはまらない」
- 4…「当てはまらない」

- 1 「つくば未来塾」に参加したことで、生徒は学習上のつまずきが解消できたり、学習習慣の定着につながったりといった成果を感じますか。

1                      2                      3                      4

1で回答した、具体的な理由を記入してください。  
(例) 「つくば未来塾」での参加を通して数学の基礎的な問題を理解することができた等

- 2 「つくば未来塾」のように学校以外の方（地域の方や大学生）に教えてもらう機会は有効だと思いますか。

1                      2                      3                      4

- 3 参加した学習チューターの印象をお書きください。

- 4 「つくば未来塾」を実施してよかったと思いますか。

1                      2                      3                      4

4で回答した、理由を記入してください。

- 5 今後の課題（次年度以降、本事業を実施する際の改善点等）について御記入ください。

(例) 学習につまずきを感じている生徒が、未来塾に参加できていない状況がある。  
→課題や提出物を学習チューターの方に手伝ってもらうなど、生徒の困り感に寄り添いながら未来塾事業を活用する等

御協力ありがとうございました。

【様式4-3】

「つくば未来塾」実施アンケート（学習チューター用）

※当てはまる番号（1～4）のいずれかを、○で囲んでください。  
各番号の意味は下記の通りです。

- 1…「当てはまる」
- 2…「どちらかという当てはまる」
- 3…「どちらかという当てはまらない」
- 4…「当てはまらない」

- 1 学習支援を通じて、生徒の学習のつまずきを解消できたと思いますか。  
1                      2                      3                      4
- 2 学習支援を通じて、生徒の学習習慣が身に付くきっかけを与えることができたと思いますか。  
1                      2                      3                      4
- 3 生徒たちは集中して意欲的に学習に取り組んでいましたか。  
1                      2                      3                      4
- 4 今回の学習支援は、御自身の学びや成長につながりましたか。  
1                      2                      3                      4
- 5 学習支援を通じて、生徒と楽しく交流できましたか。  
1                      2                      3                      4
- 6 今後もつくば市の事業において御協力をいただけますか。  
1                      2                      3                      4
- 7 「つくば未来塾」に参加してよかったですか。  
1                      2                      3                      4

7で回答した、理由を記入してください。

- 8 今回の「つくば未来塾」で学習支援を行った感想を自由にお書きください。

## 令和7年度つくば未来塾運営会議開催要項

(開催)

第1条 教育長は、生徒の学力向上及び学習習慣の定着を目的としたつくば未来塾事業（以下「事業」という。）を円滑に推進するため、つくば未来塾運営会議（以下「運営会議」という。）を開催する。

(構成)

第2条 運営会議は、次に掲げる者のうちから、教育長が委嘱した10名以内で構成する。

- (1) 学校教育関係の代表者
- (2) 保護者及び地域住民の代表者
- (3) 青少年育成団体等の代表者
- (4) 行政関係者

(任期)

第3条 委員の任期は、委嘱の日からその日の属する年度の末日までとする。ただし、再任を妨げない。

2 委員に欠員が生じた場合は補欠者を委嘱し、その任期は前任者の残任期間とする。

(検討事項等)

第4条 運営会議においては、次の事項について検討する。

- (1) 事業の企画・運営に関する諸問題
- (2) 事業全体に関する検証・評価
- (3) 学校と地域の協働連携の在り方

(座長等)

第5条 運営会議に座長1名及び副座長1名を置く。

2 座長及び副座長は、委員の互選により定める。

3 座長は運営会議を統括する。座長に事故があるとき、又は欠けたときは副座長がその職務を代理する。

(開催回数)

第6条 運営会議の開催は年度内に2回とする。ただし、必要に応じて臨時に開催することができる。

2 会議は教育長が招集し、座長が議長となる。

(庶務)

第7条 運営会議に係る庶務は、教育局生涯学習推進課において行う。

(謝礼)

第8条 市は、運営会議の開催に当たり、第2条第2号及び第3号に該当する委員に対し、謝礼金として1回につき3,000円を支払う。

(旅費)

第9条 市は、運営会議を開催する場合、第2条第1号に該当する委員に対し、市の規定に基づき旅費を支払う。

(補則)

第10条 この要項に定めるもののほか、運営会議の運営に関し必要な事項は座長が運営会議に諮って定める。

附 則

この要項は、令和7年6月1日から施行する。

## 会 議 録

会議の名称		令和7年度 第2回つくば未来塾運営会議		
開催日時		令和8年(2026年)3月18日(水) 開会 午後2時 閉会 3時30分		
開催場所		つくば市役所5階 501会議室		
事務局(担当課)		教育局生涯学習推進課		
出席者	委員	中山 正巳(座長)、板谷 亜由美(副座長)、田中 雄輝 倉持 勝男、長谷川 清恵、増沢 喜良		
	その他	なし		
	事務局	課長 澤頭由紀子、参事 山口健次 課長補佐 瓜阪恵理名、係長 飯島遊、主事 染谷 彩乃、 社会教育主事 村上和宏、地域連携教育指導員 酒井和宏		
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	なし
非公開の場合はその理由				
議題		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和7年度実績報告</li> <li>・ 質疑応答</li> </ul>		
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 主催者挨拶</li> <li>3 議事               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 令和7年度つくば未来塾事業実績報告</li> <li>(2) 質疑応答</li> </ol> </li> <li>4 その他</li> <li>5 閉会</li> </ol>			

<審議内容>

事務局（瓜阪補佐）：皆様、本日はお忙しい中、本運営会議に御参加いただきまして、どうもありがとうございます。

ただいまより令和7年度第2回つくば未来塾運営会議を開催いたします。

なお、この会議に関しては、つくば市附属機関の会議及び懇談会等の公開に関する条例第3条に基づき、公開といたします。会議録については後日、つくば市ホームページに掲載します。皆様どうぞよろしく願いいたします。

では、まず、つくば市教育局生涯学習推進課長の澤頭から挨拶申し上げます。

事務局（澤頭課長）：皆様、改めましてこんにちは。つくば未来塾運営会議委員の皆様におかれましては、御多用の中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。前回7月に開催しました第1回未来塾運営会議では、委員の皆様から多くの貴重な御意見、そして御助言をいただきました。今年度は、その時の御意見も参考にしながら、各学校と連携し、より効果的な事業運営に取り組んで参りました。

具体的にはこの後担当から御説明させていただきますが、まず未来塾事業の学習終了後、生徒が今日の振り返りをしまして、学習チューターへフィードバックしてはどうかという御提言に対しまして、実際に実践したところ、チューターは生徒の学習状況を把握することができ、生徒への関わりがより深まったなどの効果が出られました。

また、集中して学習に取り組みたい生徒と相談しながら学習を進めたい生徒の部屋を分けるなど学校ごとの工夫が見られ、より質の高い学習支援が実施されました。

このように、この会議が未来塾をよりよい事業に進化させるためにも大変有益な会議となっていることを皆様に御報告させていただくとともに、深く感謝申し上げます。

本日の会議では、今年度のつくば未来塾事業の実施状況につきまして御報告

させていただきますとともに、今後の事業の充実に向け、委員の皆様から忌憚のない御意見を頂戴できればと思っております。

本日もどうぞよろしく願いいたします。

事務局（瓜阪補佐）：それではここからの議事進行につきましては、中山座長にお願いいたします。

中山座長：はい。事務局からございました中山でございます。

それでは本日の議事につきましては、次第にありますとおり、令和7年度つくば未来塾事業実績報告、そして質疑応答ということで、まず1番の令和7年度つくば未来塾事業実績報告をお願いします。

事務局（飯島係長）：生涯学習推進課係長の飯島と申します。よろしく願いいたします。

ではお手元でございます、令和7年度つくば未来塾事業実績報告書の1ページ目を御覧いただければと思います。

今年度を含めた5年間の実施回数や実施時間が経年で比較されております。

1番上の実施回数、実施時間から御説明いたします。

令和7年度につきましては、実施延べ回数が200回、実施延べ時間が377時間となっております、概ね例年どおりの数値となっております。

続きまして2番の学習チューター関連になります。

学習チューターの延べ配置時間が1,493時間、学習チューター協力延べ人数が860人。学生協力延べ人数が320人、学生のうち、筑波大生大学院生の延べ人数が241名。他大学の学生の延べ人数が79名、一般の方の延べ人数が540名となっております。

また、学習チューターの内訳といたしまして参考のところを御説明いたします。

学習チューターに登録された実際の人数が152名でした。そのうち筑波大生、大学院生が72名、他の大学生が14名、一般の方が66名となっております。登

録数が前年に比べて若干減少しておりますが、例年、急なキャンセルなどが出た場合に備えて、2次募集を行っていたため、登録数が増える傾向にありましたが、今年度は1次募集の人員だけでキャンセルに対応ができましたので、その点が影響していると考えられます。

続きまして生徒関連です。

まず、つくば市の中学校・義務教育学校の在籍人数が6,689人となっております。未来塾に参加した生徒の延べ人数が7,863名。そのうち実際に参加した生徒の人数が1,803名となっております。延べ人数が減少しておりますが、昨年度までは生徒全員を参加対象としている学校が幾つかありましたが、今年度は原則、希望者の参加といたしましたのでそちらが影響しているのではないかと考えております。

続きまして、平均値と経年比較です。

チューター1人当たりの活動回数が5.7回、未来塾1回当たりのチューター数が平均4.3人。チューター1人当たりの担当生徒数が平均9.1人、参加生徒1人当たりの参加回数が平均4.4回、1回当たりの参加生徒数が39.3人となっております。概ね例年どおりの数値となっております。

続きまして、2ページ目の予算執行率について説明いたします。

まず歳入につきまして、このつくば未来塾事業は、文部科学省及び茨城県の補助を受けて実施しております。

補助対象経費の3分の2が国と県からの補助の対象となっております。令和7年度につきましては、交付決定額が272万6,000円ということで、こちら8月に決定が出ております。これに対して最終的な実績に基づき、額が確定いたしますので、実際の確定額については、未定となっております。

続きまして歳出になります。順に御説明いたします。

1番上の指導員謝礼、こちらが未来塾の学習チューターに支払う謝礼の額となっております。1時間当たり2,200円の謝礼となっております。当初予算額

438万9,000円に対して、決算見込み額は355万6,300円。予定執行率が81.03%となっております。

続きまして、未来塾運営会議委員謝礼、こちらは当運営会議の委員の皆様にお支払いする謝礼となっております。当初予算額3万円に対して、決算見込み額が1万2,000円。現在の執行率が40%となっております。

また、費用弁償につきましても、運営会議の旅費となっており、こちらは予算額2,000円に対して、決算見込みが74円。執行率3.7%となっております。なおこの謝礼と費用弁償に関しましては、本日の運営会議の分は含まれておりませんので、最終的にはもう少し執行率が上がるものと考えております。

続きまして、消耗品です。名札や筆記用具といった事務用消耗品、こちらが当初予算額21万6,000円に対して、決算見込みが18万9,017円。執行率が87.51%。問題集などのテキスト代が21万6,000円に対して、決算見込みが18万9,789円、執行予定率が87.87%。

また、学習チューターの往復途上で万が一事故などがあった場合の保険料が当初予算額7万9,000円に対して、決算見込みが7万8,100円で予算執行率が98.86%となっております。

合計で493万2,000円の予算額に対して、見込み額が402万5,280円。予算の執行率が81.62%の見込みとなっております。

続きまして執行率の推移に関してです。

令和7年度の見込みに関しましては、例年同様、概ね80%前後で推移しておりますが、同様の数値となる見込みです。

私からの説明は以上となります。

中山座長：項目ごとに質疑を受けたほうがいいですか。それとも全ての説明終わってから一括のほうがいいですか。

事務局（飯島係長）：はい。項目ごとでお願いします。

中山座長：ただいま飯島係長から説明ございました主に事業実績と予算執行率

に御質問ございますでしょうか。

はい。倉持委員どうぞ。

倉持委員：前回の会議で歳出のテキスト代をもっと充実させて欲しいという意見があったと記憶しているのですけれども。決算見込は18万9,789万とありました。私は少ないと思うのですけれども、来年度はテキスト代をもうちょっと充実させるような方向なのでしょうか。

事務局（飯島係長）：はい。御質問ありがとうございます。

では、まず今年度に関してなのですが、年度途中でしたので、予算の増額はできませんでした。ただ、今まで教科書などが教室にないというお話がございましたので、このテキスト代を活用して、未来塾用の教科書を購入したという報告がございました。

それから来年度についてなのですが、これは大変申し訳ないのですが、財政事情が厳しい状況がございまして、原則今年度以上の予算をつけるということが現実的に難しい状態となっております。なので、申し訳ないのですがテキスト代に関しましては、来年度につきましても今年度と同じ予算になる見込みとなっております。

中山座長：はい。その他何かございますでしょうか。ないようでしたら、次の実績報告を村上さんお願いします。

事務局（村上社会教育主事）：はい。社会教育主事の村上でございます。

資料は3ページ、オレンジのページになりますが、こちらを御覧いただければと思います。

私からアンケートの実態に応じた御説明させていただいた後に、課題を踏まえた令和8年度取り組みについて詳しいものを用意しましたので、重複することもあるかと思いますが、御説明させていただきたいと思います。

新しい委員の方もいらっしゃいますので、未来塾に関わるアンケートなのですけれども、実は令和6年度から少し変更させていただきました。

この1段目の表を見ていただくと、真ん中右側のところに（新）R6～というふうに書いてございまして、左側に質問項目と書いてあるのですが、右側のものが令和6年度から実施しているアンケート項目になってございまして、下も同じような形になっております。以前の質問項目は、例えば学力に関して申し上げますと、参加する前よりも学力が身に付いたと思うかというようなところで、未来塾のアンケートの調査としては、答えづらい部分もあるのかなというところがございまして、例えばこれまで分からなかった問題が未来塾をとおしてわかるようになったか、つまずきの解消、学習習慣の定着に未来塾が繋がっていったかなどの項目に新しく変えておりますのが、右側の項目になります。下にも同様に項目を変えているところがありますので、その前提で説明を聞いていただければと思います。

まず生徒の学習上のつまずきの解消についてというところなのですが、表のところですね、これまで分からなかった問題が分かるようになったかというところ、生徒の皆さん令和7年度80.7%ということで、令和6年度、令和5年度は少し質問が変わっているのですが、それほど大きく変わらずに8割程度回答いただいています。

それから先生方におかれましては、未来塾がつまずきの解消、子供たちの学習習慣の定着に繋がったかというところで88%、およそ90%近くの御回答いただいていますので、一定の効果は得られたかなというふうに思います。

生徒の皆さんからは、「以前より内容が理解できるようになった。」とか、まさに狙っているところですが、それでも、「分からない部分がある部分で質問できた。」とか、そういった前向きな回答を頂いています。

それから、一方で学習習慣が十分に身に付いていない生徒や、自ら質問することが難しい生徒への対応が例年課題にはなってくるのですが、こういったところもアンケート結果としては見受けられましたので、引き続き工夫をしていったり、事例を共有したりということを進めていければと思っています。

続いて「学習意欲の向上」に関してというところになります。

アンケートの表を見ていただくと、おおよそ良い結果にはなっているのかなと思うのですが、少し数字が低いところで申し上げれば、取り組んだ教科が以前よりも好きになったかという項目が、60.3%ということで令和6年度と比較すると、横ばいかなと思うのですが、令和5年度だと73.2%というところがあるのですが、学校に問合せをして、原因を探ってみたのですが、どちらかという振返りを見たり先生方にお話を聞いたり、生徒の方にお話を聞いたりしてみても、「苦手な教科に対しても結構前向きにやっている生徒が多かったですよ。」なんて肯定的な意見が多かったので、もしかしたらこの令和5年度はコロナ渦での未来塾だったので子供たちもこうやる気に満ち溢れたような状態でのアンケートだったというところもあったのかもしれないと考えております。

それからもう1つ狙っているところですが、生徒の皆さんの学習習慣が身に付くきっかけになったかというところで、こちらも令和6年度と比較すると横ばいなのですが、未来塾の期間については、意欲向上が見られるということで、アンケートの結果の自由記述ですとか、或いはこちらも学校やチューターの方に問い合わせたり、子供たちの生の意見を聞いたりしてみても、そういった肯定的な意見が返ってきました。

この後出てくるのですが、これをきっかけに学習習慣の意欲の向上、つまり未来塾後にも学習習慣が定着するような仕掛けというのが今後必要になってくるのだろうと考えております。

それから3番目の「学校と地域の協働連携」に関してです。

アンケートの結果を見ていただくと、こちらも評価としては、概ね高い評価になっているかなというふうに思っています。

チューターに関しまして、自身の学びやキャリア形成に繋がったというところで、教職志望の大学生とかそういった方もいらして、御自身の学びにも繋が

ったという御意見がありましたので、そこはとてもよかったかなと思います。  
それから教職員からも、教員以外の視点による個別支援ですね、そういったところも生徒にとって有効であるというようなところが見られたので、そこも良かったと思います。

基礎的な部分で授業の中で伝えきれてない部分について、未来塾によって丁寧に学ぶきっかけになったり、改めて教員がその場で学習チューターとの関わりの中で、そういったところにつまずきを持っているということに改めて気付いたりといった一定の効果もあったのかなと思います。

課題と対応については、そちらにお示しをさせていただいています。

学習支援が必要な生徒への参加促進、つまずきが見られている子供たちに参加していただけるような、工夫が必要であることとか、後は学習チューターの申し上げ辛いところでもあるのですが、やはり指導力の差というのはあるかなというふうに思いますので、研修や好事例を共有することなどで、より高めていけると良いかなと思っています。

それから、先ほど申し上げましたが、未来塾期間の学習習慣の定着というのは一定の効果見受けられているのですけれども、その後の学習習慣の継続的な定着ですね。そういったところも工夫して進めていければかなと思っています。

後は学校ごとの連絡調整や、事前研修の充実等も課題として挙げられるかなと思います。

詳しいところは、こちらの課題を踏まえた令和8年度の取り組みについてというところで御説明をさせていただきたいのですが、その前にこのページについて御質問の方をまずお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

中山座長：村上さんから実績報告をしていただきました。質問ございますか。

田中委員：質問ではないのですが、学習意欲向上に関していうところの、先ほど御説明があった、取り組んだ教科が以前より好きになったかが60.3%で低いかなというお話ですけど、2人に1人以上は、未来塾に関わったことで

教科が好きになるのはすごいなと思って。僕なら多分嫌々やると思うので、絶対好きにはならないなと、いや60.3%は素晴らしい数字だと思いました。是非続けていただけたらと思います。

事務局（村上社会教育主事）：田中委員、本当に感謝申し上げたいのですが、数字を見てしまうとやはり少し下がってしまってますねと思ったのですが、アンケートを丁寧に見ていくと、未来塾の中で苦手な教科を好きになったとか、子供たちのアンケートには結構ありまして、すごく頑張っているなっていうふうに温かい気持ちになったのですけれど、数字で表すことができなかったのです。

田中委員：2人に1人好きになるってなかなかないですよ。

中山座長：その他どうですか。学校の立場からいかがですか。

板谷副座長：そうですね。学習チューターの指導力向上の役割の明確化っていうことに関して具体的にはどのように考えていらっしゃるのかなと思いました。

事務局（村上社会教育主事）：やはり私から前回もお伝えしたかと思うのですが、オリエンテーション等で生徒たちと初めて関わるチューターの方なんかもいらっしゃるものですから、例えば特徴的な文房具を持っていたら、それをきっかけにして、「かっこいいシャーペンだね。」と声をかけるといいですよということですか、あとはなんか子供たちって、恥ずかしがり屋な子も当然いますし、自分が未来塾を訪問させてもらったり、前の勤務校で関わっていたときに、チューターの方が生徒の横を通った瞬間に、はあとため息をついてそれで今分かんないから声かけてっていう合図を送っていたりすると思うのですよね。そういったことをオリエンテーションやその都度お伝えしたり、或いは、私だけではなくて、チューター同士で、こんなやり方したらうまくいったということを共有したりというところも出てきたので、そういった機会を確保したり、そういった情報を伝達できると、よりチューターの皆様の力を発揮していただけるのかなと思います。そこはまだちょっと周知が足りないところがあ

るかなというふうに思っています。

板谷副座長：今年度うちの学校では9年生が結構お世話になったのですが、ちょうど私立の推薦の面接が近づいていたってということがあって、面接を受けるときの心得なんかも、教えてくれたチューターさんがいて、すごくそこに関して、ニコニコして9年生の生徒がそうなんだなっていうふうに喜んでいたので、本当にそういったところ、すごくよかったかなって思っています。

中山座長：村上さん、続きをお願いします。

事務局（村上社会教育主事）：はい。資料4ページになりますが、御説明をさせていただきますと、左側から順に校名（在籍数）から始まっています。早いところでは5月から実施をした学校もありまして、月ごとの参加延べ人数というところで数字を入れさせていただいています。

見ていただけると分かると思うのですが、年間を通して継続的に実施している学校ですとか、或いは7月、ちょうど夏休みの長期期間中に集中して開催をしているところですか、あと先ほど板谷校長先生の声もありましたけれども、ちょうど私立の面談の裏側で保護者の方を待っている時間に抱き合わせてみたいな形で、組んでいるような学校もあり、学校の実態に応じて様々組んでいただいております。

右側の方に、参加生徒の合計延べ人数ですとか、あとはオレンジのところに参加生徒の実人数ですね。延べではなくて、実際何人程度参加したのかわかっていうところが、オレンジのところになってきます。多いところ少ないところあるのですが、それぞれの特徴かなあというふうに思います。長期休みに集中してやっているところですか、あとは本当に希望制で課題を持って少人数で参加している学校ですとか、実態様々なのですが、実人数ということで参考になるかなと思ったので、お示しをさせていただいています。

その右が生徒1人当たりの参加回数というところで学年別ですね、その右側には全学年を通して、1人当たりの参加回数、およそ何回ぐらい参加している

なんていうところをお示しさせていただいています。

例えばこれを見ていただくと、ちょっと特徴が出ているところで谷田部中は生徒1人当たりの参加回数の9年生のところは5.3人なんていうふうになっております。これは先ほど申し上げたとおり、私立の面接の時期に集中して9年生を中心に未来塾を組み込んでいるなんていうところで、それぞれの学校の実態もあるかなというふうに思います。

続けて5ページになりますけれども、こちら月ごとの時間数になっていきますけれども、各学校の方に入力をさせていただいたものになります。

実施時間数で右から2番目のところですけど、99、88といったように数字が入っています。学校には90時間を基本に、90時間から100時間の間でチューターの方を組み込んでくださいということで、御連絡をさせていただいているところです。一番右側の時間達成率というところは基本的には90時間を基準にして達成率を出させていただいている形になります。全体として、こちらが求めている90時間のところの達成率で言うと、右下のところですけども、94.6%となっております。こちらの資料については以上です。

中山座長：事務局から説明がございましたが、皆さんから質問を受けたいと思います。いかがでしょうか。

長谷川委員お願いします。

長谷川委員：はい。豊里中学校が全部で431人在籍の中、実人数が246人で半分くらい参加されているんですけど、これはどうやって募集をかけたのだろうっていうのが気になりました。

事務局（村上社会教育主事）：どうやって募集をかけたかというよりは、担当の先生の意欲が今年度非常に高くてですね、我々の想定としては、おおよそ早くても6月下旬ぐらいからスタートといった感じだったのですけれど、御依頼のお電話がありまして、5月からできないかというところで、お受けしますということで5月から実施していただきました。

以前、豊里中は長期休み中に生活のリズムを崩さないようにという意図で実施しておりまして、結構集中してできている時間がちょっと少ないかなんていうところも見受けられましたので、少人数でいいですよという提案を酒井先生からしていただいたところ、効果を感じていただけたようで。このような経緯で今年度は意欲的に実施していただけたのではないかと思います。

長谷川委員：来年は豊里中を希望しようと思います。

事務局（村上社会教育主事）：是非お願いいたします。

中山座長：学年別で見ると、谷田部中の3年生が764人で非常に多いなど。

事務局（村上社会教育主事）：谷田部中はこの後もちょうと御説明しようかなと思っていたのですが、やり方も工夫されていて、対話を通して学びたいとかチューターの方をお願いしたいという子たちと、あとは1人で集中して学習をしたいってような子たちのお部屋を分けてやっていったところもあるので、子供たちの人数も把握しながら進めていただいている、人数的にも多かったのかなというふうに感じています。

中山座長：その谷田部中で11月の3年生が396人、1・2年生が7日間で9人、5人とだいぶ少ないのだけでも、何かこれは。

事務局（村上社会教育主事）：そうですね。おそらく私立の面接の抱き合わせて組み込んだのだと思われるのですが、多分谷田部中としては、7年生と8年生にも、もうちょっと参加をして欲しいってところがあると思いますし、多分この9月に組み込んでいるものも、おそらく私は谷田部中にいたからわかるのですが、テスト前に組み込んでいるのだと思うのですよね。

ただ先ほどの課題のところには繋がっていくのですが、もうちょっとこう未来塾やって行きなよって思っている子たちになかなか声が届かないってところが、この数字としてはちょっと見受けられるかなあという形で、本当に工夫してやっていただいているのですが、その辺がやっぱり課題にはなってくるのかなと。

板谷副座長：補足じゃないのですが、11月はちょうど9年生が受験を強く意識するころで、色々なイベントももう終わってしまって、そしてあと、この11月とか12月の実力テストがもうここから自分の行き先を決めるような大事なテストなので、その辺りに谷田部中さん上手に未来塾を組み込んだのだからなというふうに思います。それでぴたっと合って、本人たちが自らやりたいってことで申し込んだ形じゃないかなと思って、素晴らしいなあと思います。

中山座長：その他いかがですか。増沢委員いかがですか。

増沢委員：はい。取り組んだ教科が以前よりも好きになった割合が低いとか高いとかというお話があったと思うのですけれども。

やっぱり教科が好きになるとか、それをきっかけに、継続して学ぶ習慣を作るというのはやっぱり大事なことなのかなあと思うのですよね。

そういった中で、色々考えていたのですけれども、実際できるかどうかは別として、教科が好きになるというのは、やはりその教科の利用方法とかですね、学ぶ価値があるみたいに、感じたりするべきなのかなあと思います。チューターの方は半分ぐらいが大学生なので、何でその大学で、例えば数学なり英語なりを学んでいるのかな、そういった教科の魅力って何かあったらいいのかなと。

あとやっぱり、大学生なので、きっと効果的な学習の仕方なんかもね、あるのだろうなあと思うと、勉強だけじゃなくって学び方みたいなものも、本当はお話してもらえると、学び方を学べれば、継続して学習していけるのかなということも思ったりしました。

ただ、チューターの方にそこまで求めるのも酷かなと思うのですが、最初の5分だけでもそのような時間が取れるといいのかなと思いました。

長谷川委員：まさにやりました。

増沢委員：そうですか。

長谷川委員：はい。高崎中は、チューターさんにめったにいらっしやらない筑

波大生がお2人も来てくれたので、これはとって。

最終日9年生に来てもらって、最後に5年前に受験をした人たちですっていうことで、どういうふうな勉強をしたかとか、今頃はどういうふうな体制でいたかとか、そういったものをちょっと伝えてくださいっていうのは2人にお願いして、それでその後すぐにアンケートをとったのですが、子供たちもみんな本当にためになると思ってくれたみたいで。私が思ってもいなかったようなことをアンケートに書いてくださって、多分控えてあるかなと思うのですが。その2人は今度もぜひ応募しますって言ってくれました。

事務局（村上社会教育主事）：長谷川委員がおっしゃられたことで、自分も未来塾に携わらせていただいととても感じるころなのですが、例えば数学の基礎的なところを教える際に、ちょっと宇宙開発に関わっている方なんかもチューターの方でいらっちゃって、実はここの計算式がね、宇宙開発のこういうところに繋がっていくんだよみたいな話をしたらその生徒もたまたま宇宙にすごく興味があったみたいで、ばっちりハマったみたいで、こういった形で興味関心をそそるようなこともありました。

あるチューターの方は、未来塾の学習時間とは別に5分ぐらい時間の方とって、ヒグマと対決した話とか御自身の人生経験の話をさせていただいて信頼関係が繋がったなんて話も伺っています。

事務局（酒井地域連携教育指導員）：実は、こちらからお願いしていることもあったのですが、学校で自主的に背景を生かした指導をしていただいて、最初に自己紹介をチューターさんにしてもらって時間を設けて、その時に大学でどんな勉強をしているとか、或いは自分がどんな経験をしているかなどのお話をしてもらってそれをきっかけに生徒たちと休み時間に話をしたり、或いは学校によっては最後の5分くらいとって夏休みの勉強の仕方、私はこうしたいみたいな話をしてもらっている学校もありました。もう少しそういう好事例を広めていければいいなと思っております。

あと、板谷先生の面談のスキルはすごくいい話だなと思ったので、ぜひそれを広げていければと思います。ありがとうございました。

中山座長：ありがとうございます。

続いて、事務局から「課題を踏まえた令和8年度の取組について」をお願いします。

事務局（村上社会教育主事）：これまでの課題それから成果については、資料3ページと似たようなところが書かれています。

それぞれのところに、令和8年度に向けた具体的な取組としてこのようなことができるのではないかという内容を提案させていただいております。

これまでの成果としては、生徒一人一人に寄り添うという場面、環境としても提供することはできたのかなというふうに思いますし、どのアンケートを見ても、丁寧に教えてくれたことで分からないことが分かるようになったというところで、狙っているところについて一定の効果は、挙げられているかなというふうに思います。

それから、増沢委員から前回の会議でフィードバックをされたらどうかということで御助言いただきまして、モデル校ということで、高山中、谷田部中、高崎中、手代木中に御依頼させていただきまして、毎回の終了後子供たちに今日の振り返りを記入していただき、学習チューターにその内容をフィードバックしました。

子供たちの学習状況を把握して、次回の未来塾に生かすことができましたので、これは継続していければなというふうに思っています。

現場に行くと、静まり返ってこれはどうなのかという場面もあったりするのですが、一方で子供たちのアンケートを見ていると、「質問しなくても進められるような雰囲気ができていたので質問しませんでした。ただ、質問はいつでもできるような雰囲気を作ってくれたのはありがたかったです。」とありました。チューターの方で何かこう静かで関わり方がまずかったかなとか、上手く

いかなかったかなと反省されている方もいたのですが、そういうことももちろんあると思うのですが、一方で、集中して子供たちが取り組める環境を創出できたという面があることがフィードバックによって伝わり、安心して次の未来塾に参加してもらえるので、すごく大事かなというふうに思いました。

課題としては、やはり子供たちが自ら質問できないこと、つまずきが見られる生徒に対して、もう少し参加率を上げていきたいというところがありますので、具体的な取組として幾つか書かせていただきました。

これも投げかけているところではあるのですが、参加前に課題の整理シートとか、シートに書かずとも自分の分からないところを明確にして参加をすとか、そういったところを投げかけることが大事かなというふうに思います。

それから質問が苦手というか、分からなくても初めて会う人に質問をすることがハードル高い子供たちもいますので、質問タイムを意図的に設定することも1つの方法なのかなと思いました。

チューターのアンケート見ても、子供たちが集中して学習しているタイミングなのか、それとも声をかけたいと思っているのかが分からず、子供たちに声をかけるか迷うといったような意見が結構多くみられました。であれば、短い時間でも今質問する時間だから積極的にどうぞみたいな形で環境を設定してあげると、上手くいくこともあるのかなというところで、押し付けではなく、こういったやり方もいかがですかということで次年度は提案できればなと思っています。

それからこれはいつも言われているところですが、やはり長谷川さんみたいな方が行けばみんな質問するわけなのですよね。やっぱりそこに信頼関係がありますので、「誰々さんだ。」ってこう顔と名前が一致するような関係値で未来塾も実施していきたいなということを考えると、やはり努力はしているのですけれども複数回配置、継続的な関わりといったところが肝になってくるかなというふうに思っています。

それから、担任と連携してつまづきが見られる生徒へ個別に参加を促すという事で、私、教員籍でお世話になっているものですから、自分が教員の時のことを振り返ってみると、やはり担任の声掛けも大事かなというふうに思っています。

例えば、子供たちに「未来塾の誰々さんって知っている？こんなことできる人なんだよ。」とか、「数学教えるのがすごい上手なんだよ。」そんな声掛けをしてあげる。つまり、担任の先生が未来塾と上手く連携し、効果を実感することが子供たちの学びに繋がっていくかなと思いますので、そういったことも折に触れて、学校にも伝えていければなと思います。

それから単なる自習の場ではなく、必ず対話が生まれる学習支援を転換していくということで、先ほども話題に上がりましたが、キャリア教育の視点ですとか、子供たちが何を目指して、目指すためにはこの学習が必要なんだなということで、キャリアと学習の繋がりを子供たちが実感することによって、対話も生まれてくるのかなと、そういったことも考えられるかなと思いましたので、書かせていただきました。

それから、単なる自習の場ではなく、と書かせていただいたのですが、子供たちのアンケートを見ると、場を設定するという事も大事なのだなということに気付かされました。「家で学習しても、スマホや YouTube といった様々な誘惑があるので、未来塾という環境があることは、テスト前としてはすごくありがたかったです。」というような子供たちの意見もたくさんあり、効果が感じられました。

それから学習習慣の定着についての成果と具体的対策というところなのですが、学習成果についても、すごくきっかけになりましたということ、それから、先ほどの環境の話になりますが、友達と一緒に学習するという事で、やはり共に高め合う意欲が非常に沸いたというところで、「1人で学習していたらこんなに長い時間は学習できなかった。」というようなアンケート結果も見受け

られたので、そういった意味でもすごくよかったのかなと思っています。

参加して欲しい生徒ほど参加が消極的であること、意欲が継続しにくいこと、これは学校としては、いつも悩みだと思うのですが、対象生徒を明確にしたり、学年で参加を促す仕組みを作ったりということも重要ではないかと思います。

また、先ほど申し上げましたが、未来塾に対して前向きに「こんな自分になれるよ。」とか、「こんなことがあるよ。」というようなところを丁寧に学校とチューターで連携して子供たちに伝えるとていうことが大事かなと思います。あとは、将来像と学習を関連付けるとかそういったところかなというふうに思います。

また、その日の内に頑張らせず、家庭学習へ接続する仕組み作りも1つかなと思います。「今日ここまでできたから、次の未来塾の時までにここを宿題として出すからやってきてみて。」と伝える。もちろん学校との連携は大前提で必要だと思うのですが、そういった取組も1つなのかなということも共有させていただきました。

裏面になります。

実施方法の改善と体制整備ということで、これまでの成果ですね。少人数配置や教室の使い分けにより、集中と質問のメリハリをつけることができた。

先ほど谷田部中で、集中するお部屋と対話を生み出すお部屋ということで分けているなんて話もありましたけれども、小グループで子供たち集まってもらって少人数指導みたいなことで学習をしているような学校もあったようです。かなり効果的だと聞いています。

そういった好事例が少しずつ出てきたので、つくば市内で全ての学校に共有していきたいなと思っています。

あとは、チューターの方の関わりによってどうしてもやはり子供たちの学びの質というのは変わってきてしまうので、先ほどの繰り返しになりますが、社会人の方々対象に未来塾のことについて説明をしたり、シチュエーションによ

って、どんな対応ができますかというディスカッションをしたりとか、そういったことを意図的に設定することも大事なかなというふうに思っています。

あとは、各学校に核となる学習チューターを配置できればなというふうに思っています。

長谷川委員におかれましては、チューターの出席とか子供たちの出席といった運営も担っていただいているとお聞きしています。学習チューターリーダーのような、こういう方針でやっていきましょうとか、困っていたらこんなふうに声かけてあげましょうとか、そういったことがチューター同士でもできると、さらに良い未来塾になっていくのかなと思っています。

最後に、令和8年度の重点方針についてです。

我々の立場でできるところを考えると、例えば2番目の幅広い生徒への確実な参加促進は、直接学校に関わるのは難しい部分もありますので、好事例の紹介をして、こんなやり方ができますとか、実際にこんな効果を得ている学校もありますとか、そういったことを密に情報提供することが大事なかなというふうに思っています。

信頼関係の構築というところは、やはりチューターと学校との連携というところで、コミュニティ・スクールでは、今地域と学校で共に子供たちを育てるなんていう仕組み作りも行っているところですので、地域と学校が連携して、子供たちの学びを支えるといったところも折に触れて伝えていければなと思っています。

長くなりましたが、以上です。

中山座長：村上さんから令和8年度の取り組みの説明でした。

皆さま、御質問、御意見ありますでしょうか。

では、長谷川委員お願いします。

長谷川委員：私今回ですね、18校あるうち8校ぐらいチューターとして参加しました。本当に楽しかったです。

例えばですね、テキストの話なんですけども、教科書が欲しいとお話したのですが、私が行った限りでは、高崎中だけ新しい教科書を用意してくださいました。あとはテキストはありませんでした。紙を用意してくれる学校はありましたけども、ほとんどは学校のホワイトボードを使わせてもらいました。

あとは、学校によって、本当に色があって、生徒の誰がここに座るっていうふうに決められていて、そこにチューターは誰で、次の時間のときにはチューターが変わりますよっていうところですよ。

あとは、全部長谷川さんにおまかせしますとか、色々なところがありまして、今日は7年生お願いします、今日8年生お願いしますっていうざっくりな計画もあったし、だから本当に学校の先生方の関わりが様々で、パッと見て、どういふ子たちがいてっていう判断をして1時間なり1時間半っていうのを学習やっているんですけども。

話してほしくないっていう子もいれば、「長谷川先生来た。」みたいな感じで名前覚えてくれる気さくなお子さんが多いところがあるんですよ。そういうところはもう本当に先生方も、ここは安心して任せちゃおうっていうふうに思ったださっているだろうなと感じました。

あとは、これが悪いってことじゃないと思うんですが、高山中は先生方が本当にもう参加していらっしゃいます。もう全然私嫌じゃないんですけども、先生方も楽しいみたいで。頑張っている子供たちのところに寄り添って一緒になってお勉強している様子で、微笑ましく思いました。先生方の関わりも色々あったなと思いました。

あとは、生徒さんの意識が、これ間違いなくお母さんに言われて来ているなっていう子もいて、その子たちはやっぱり飽きますね。お友達が一生懸命やっているところを、ちょっと邪魔して騒がしくなる時間もあったかなっていうのは、ありました。

色々あるんですけど、7年くらい私もやっているのと、何となく感じるものが

あって、集中したいっていう子は筆の走りも違うので、その子は声を掛けないほうがいいし、でも何か聞きたい子はもう何回も何回も消しているのが分かるんですよね。教えてあげようかっていう感じではなくて、一緒にやろうかっていうふうに近づくと、こういうふうに席をどかすんですよね。ここ座ってみたいな感じで、そういうふうにその子を見て近づいていくっていうことが大事かなって思います。

「どこ分からない？」って聞かれると、分からない前提になってしまうんだけど、「一緒にやらない？」っていうと、打ち解けてくれる子は多くて、これ絶対辞書があると分かりやすいやつだなあって言うと、次の日はちゃんと辞書を置いておいてこうやって待っているんです。もうそれがすごいかわいくて、私を待っていていたっていう気持ちもありました。

だから自分もこの8校を見て、本当に毎回毎回実りが多くて、学びも多くて、また今度の応募する期間が楽しみでならないです。

本当に集中したい子っていうお部屋とワチャワチャやりたいっていうお部屋があるというのもいいんだけど、でも、またそれも少し難しいのかなあって。やっぱり集中はしたいけどちょっと聞きたいのもあるんだろうなっていうふうに思ったりとか。

あとは、先生があらかじめ生徒もチューターも割り振りを決めてしまう学校もあったんですが、子供たちも、まだ次の時間も聞きたかったのに、なんていうこともあったりもするので、自主的にチューターに任せてもいいかなっていうのは色々ありました。

あと、私と一緒に高崎中でチューターをした方がおっしゃっていたことで、なるほどと思ったのが、任せてもらえるのは嬉しいんですけど、本当に大地震とか、何かすごく大きな災害があったときに、例えばここに学生さんしかいないときに、この子に全部任せていいのかなっていうふうに言われたときにはそれは確かにそうだなと。任せていただくのはありがたいんですけど、近くに先

生たちがいるような配置も必要かなっていうのはありました。

ですが、すごく楽しい1年間でした。ありがとうございました。

板谷委員：今のお話の最後の件で、7・8・9年生の希望者に1つの多目的室でチューターさんに教えていただくんですが、必ず先生は1人は配置して何かあったときのためっていうふうには心がけるようにしていて、やっぱり、チューターさんだけだと本当に何かあったときに、具合悪くなった子がいたりとかって言ったときには、大変だと思うので、やっぱり1人はつけたほうがいいのかなと。

長谷川委員：先生が教えなきゃいけないかなっていうふうに思わなくてよくて。本当に来てくれるだけいいんですよ。

板谷委員：そうですね。そこで自分の仕事をさせていただいて、必ず1人はつくようにっていうことで、もし先生がつけないときには、うちは教頭先生が行ってくれたりっていうのは、ありました。

中山座長：現場の声をたくさん聞かせてもらいましてですね、長谷川委員だけじゃなくて、学生のチューターの話も聞いたほうがいいかなと思います。

オリエンテーションやってらっしゃいますよね。それは誰が説明するんですか。この長谷川さんみたいな人が説明しているんですか。

事務局（村上社会教育主事）：私から説明させていただいております。

中山座長：チューターが同じ方向を向かないとき、全然好き勝手なことやったら、全くバラバラなっちゃうから。終わった後に反省点とか、こうしたらいいんじゃないかと聞いた方が、より良くなるんじゃないかなと思いますよ。

長谷川委員：オリエンテーションっていうと、何かちょっと聞いている側ってなってしまうんですが、先ほどおっしゃっていましたが、勉強会みたいな感じでやるといいなあって。

筑波大の方たちだけのオリエンテーションではないんですよ。あそこにも、他大学の人が行っていいんですか。

事務局（村上社会教育主事）：そうですねただやり方としては、2つやってみまして、筑波大の教育学類の方を基本とした方々のオリエンテーションと、あとは一般の方々、ここに筑波大生も入ってくることもあるんですが、オリエンテーションは2回させていただいています。

長谷川委員：結構学生さんね、やった方がいい。

事務局（村上社会教育主事）：そうですね。分からないって辛いんですよね。子供たちにとっても。分からないって言ったときの反応が怖いんですよね。なので、オリエンテーションの中では、例えば質問したいんだろうけどできないんだろうなという子たちには、例えば「この单元、私も中学校のときに難しかったなあ。」と一声かけてあげると、「ここは先生も難しかったんだ。」とやって認識広がってくと、声かけやすくなったとやって子供たちから聞いたこともあったので、そういう長谷川委員の御経験をチューターさんに共有できるといいなと思いました。

長谷川委員：漢字の書き取りやっている子は声かけないでオーラなんですよ。だけど、「すごい字奇麗。」っていうと喜んでくれて、そこから国語をしまい始めて違うやつをやり始めっていうふうになってくると、のってきたっていうふうに思います。私はよく褒めます、「すごい綺麗な字だね。」っていうふうに、そうすると本当にスーッと入ってくれる。

中山座長：その他よろしいですか。

増沢委員：先ほどですね、この未来塾の参加に対して消極的な子もぜひ来て欲しいというお話がありました。

どういった原因で来ないのかなあと考えたときに想像ですけど、やはり本人も何をしたらいいか分からないということも多いんじゃないかなと思うんですよね。なので、その辺は先生の方から「ここを聞いてきたら。」とか「ここを勉強してきたら。」っていうふうに支援してあげるとか。もしくは「教材さえ持ってくれば、何からやっていいかもチューターさんに相談していいんだよ。」

みたいな、なんか少しハードルを下げたあげられるといいかなって感じがしますね。

同時に、先ほど長谷川委員からもありましたけど、時間とか場所とかがきちり決められた構成された状態だと、なんかこう苦しい気がするんですよ。だから特に、参加に消極的な子に対しては、「10分でもいいんだよ。」とか、「終わったら帰ってもいいよ。」とか、少しずつこう自分でハードル上げていけるような柔軟性もあったら、参加できるかなというふうな、自信になってね、続いてくれるといいかなっていうことをふと思ったので、お伝えさせていただきました。

中山座長：はい、ありがとうございました。

ちょうど時間になりましたので、後は事務局にお返しします。

事務局（飯島係長）：様々な御意見どうもありがとうございました。

では、全体を通して御質問ですとか、御意見等ございますでしょうか。

ありがとうございます。

では、来年度の未来塾に関しましても、本日頂いた御意見を参考にさせていただきます、取り入れながら進めて参りたいと思います。

また、未来塾運営会議の皆様が1年となっております。今回が今年度最後のつくば未来塾運営会議となります。1年間ありがとうございました。

来年度に関しましては、また改めて事務局で委員の検討をさせていただきますので、またその際、御協力をお願いすることがあるかもしれませんが、よろしくお願ひいたします。

事務局（瓜阪補佐）：では以上をもちまして、令和7年度第2回つくば未来塾運営会議を閉会いたします。

皆様どうもありがとうございました。

令和7年度  
つくば未来塾事業実績報告書



令和8年(2026年)3月18日(水)  
つくば市教育局 生涯学習推進課

# 令和7年度つくば未来塾事業実績

## 1 実数と経年比較

### ①実施回数・実施時間

	項目	R7	R6	R5	R4	R3
A	実施延べ回数（回）	200	219	194	161	123
—	実施延べ時間（時間）	377	379	348	308	209

### ②学習チューター関連

	項目	R7	R6	R5	R4	R3
—	学習チューター延べ配置時間（時間）	1,493	1,550	1,498	1,380	907
B	学習チューター協力延べ人数（人）	860	852	781	685	501
—	学生協力延べ人数（人）	320	400	344	295	272
—	筑波大生（筑波大院生）延べ人数（人）	241	315	287	232	224
—	他大学生延べ人数（人）	79	85	57	63	48
—	一般協力延べ人数（人）	540	452	437	390	229

### 【参考】学習チューター登録内訳（実数）

	項目	R7	R6	R5	R4	R3
C	学習チューター登録数（人）	152	165	171	176	177
—	うち筑波大生・筑波大院生（人）	72	85	79	79	94
—	うち他大学生（人）	14	16	16	25	24
—	うち一般（人）	66	64	76	72	59

### ③生徒関連

	項目	R7	R6	R5	R4	R3
—	中学校・義務教育学校在籍数（人）	6,689	6,622	6,584	6,608	6,694
D	参加生徒延べ人数（人）	7,863	9,150	9,558	8,926	8,248
E	参加生徒実人数（人）	1,803	1,824	—	—	—

## 2 平均値と経年比較

	項目	R7	R6	R5	R4	R3
B/C	チューター1人当たりの活動回数	5.7	5.2	5.2	4.6	3.9
B/A	1回当たりのチューター数	4.3	3.9	3.9	4.0	4.3
D/B	チューター1人当たりの担当生徒数	9.1	10.7	10.7	12.2	13.0
D/E	参加生徒1人当たりの参加回数	4.4	5.0	—	—	—
D/A	1回当たりの参加生徒数	39.3	41.8	41.8	49.3	55.4

### 3 予算執行率

令和7年度つくば市一般会計予算 つくば未来塾に要する経費

歳入

節	摘要	交付決定額	交付確定額
社会教育費補助金	学校・家庭・地域連携協力推進事業 (地域未来塾) 補助金	2,726,000	-

つくば未来塾事業は、学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助金（文部科学省）、地域の教育支援体制等構築事業費補助金（茨城県）を受けて実施しており、補助対象経費に対して、国、県がそれぞれ3分の1を負担し、合計3分の2の割合で補助を出している。

当初予算に基づいた市の交付申請に対し、令和7年8月付けで県生涯学習課より補助金額2,726,000円の交付決定があった。最終的な交付確定額は、市の実績報告に基づき、令和8年度当初に確定する。

なお、当該補助金の交付については、自治体でコミュニティ・スクールを導入していることが要件となっている。

歳出

節	細節	摘要	当初予算額	決算見込額	予算執行率
報償費	報償金	指導員謝礼	4,389,000	3,556,300	81.03%
		未来塾運営会議委員謝礼	30,000	12,000	40.00%
旅費	費用弁償	費用弁償	2,000	74	3.70%
需用費	消耗品費	事務用消耗品	216,000	189,017	87.51%
		テキスト代	216,000	189,789	87.87%
役務費	保険料	損害保険料	79,000	78,100	98.86%
合計			4,932,000	4,025,280	81.62%

### 4 執行率の推移

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度 (見込)
予算額	2,910,000	3,721,000	4,581,300	5,187,000	4,932,000
決算額	2,265,630	3,071,952	3,757,541	4,031,953	4,025,280
執行率	77.86%	82.56%	82.02%	77.73%	81.62%

### 1 「生徒の学習上のつまずきの解消」に関して

生徒からは、「以前より内容が理解できるようになった」「わからない部分をその場で質問できた」といった回答が多く見られ、基礎的・基本的内容の定着に一定の成果が見られた。特に、少人数での個別対応や途中までの式を丁寧に扱う支援が効果的であった。教職員からも学習チューターによる支援は生徒のつまずき解消に有効であるとの評価が多く寄せられた。

一方で、学習習慣が十分に身につけていない生徒や自ら質問することが難しい生徒への支援の在り方については、引き続き工夫が必要であることも明らかになった。

※数値は、「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と回答した割合

	質問項目	(新) 質問項目 (R6～)	R7	R6	R5
生徒	参加する前よりも学力が身に付いたと思うか。	これまでわからなかった問題がわかるようになったか。	80.7%	82.0%	81.3%
教職員	生徒の学力向上を図る上で「つくば未来塾」の実施は有効だと思うか。	つまずきの解消、学習習慣の定着につながったか。	88.0%	89.6%	82.2%

### 2 「学習意欲の向上」に関して

つくば未来塾への参加を通して、多くの生徒が集中して学習に取り組むことができた」と回答している。「家よりも集中できた」「友達と一緒に取り組むことで意欲が高まった」など、学習環境の整備が意欲向上に寄与している様子がうかがえる。

また、「参加してよかった」「今後の学習につなげたい」といった前向きな意見も多く、学習への動機づけとして一定の役割を果たしていることが確認できた。

しかしながら、意欲の高まりが学習習慣のまで十分に結びついていない面も見られた。短期的な取組であることから、継続的な支援体制との接続が今後の課題である。

※数値は、「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と回答した割合

	質問項目	(新) 質問項目 (R6～)	R7	R6	R5
生徒	集中して、又は、楽しく学習を進めることができたか。	集中して意欲的に学習を進めることができたか。	89.7%	88.9%	93.8%
	取り組んだ教科が以前よりも好きになったか。		60.3%	61.9%	73.2%
	つくば未来塾に参加してよかったか。		90.8%	90.4%	91.0%
	これからも学習に進んで取り組もうという気持ちになったか。	学習習慣が身に付くきっかけになったか。	75.6%	75.2%	85.5%
教職員	つくば未来塾を実施してよかったか。		85.1%	84.9%	74.7%

### 3 「学校と地域の協働連携」に関して

本事業は、地域人材である学習チューターの協力のもと実施している。学習チューターからは、「生徒の成長を間近で感じられた」「自身の学びやキャリア形成につながった」といった声が多く寄せられ、地域にとっても意義のある取組となっている。

教職員からも、教員以外の視点による個別支援が生徒にとって有効であることの評価が高く、学校と地域が連携することで教育活動の充実が図られていることが確認できた。

今後も学校と地域が相互に信頼関係を深めながら、生徒の学びを支える体制づくりを継続していくことが重要であると考えている。

※数値は、「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と回答した割合

	質問項目	(新) 質問項目 (R6～)	R7	R6	R5
生徒	先生や学習チューターに教えてもらってよかったか。	学習チューターに勉強を教えてもらう時間は楽しかったですか？	73.6%	75.9%	87.6%
教職員	学習チューターによる学習支援は、生徒にとって有効だったか。	教員以外による学習支援は、生徒にとって有効だったか。	96.3%	96.3%	89.0%
学習チューター	生徒たちは集中して学習に取り組んでいたか。		90.2%	97.6%	98.9%
	学習支援はご自身のキャリアアップにつながったか。	ご自身の学びや成長につながりましたか。	93.9%	97.7%	91.6%
	学習支援を通じて生徒の喜ぶ姿に出会えたか。	生徒と楽しく交流できましたか。	100.0%	99.2%	97.8%
	学習支援にやりがいを感じたか。	参加してよかったですか。	95.8%	91.4%	98.9%
	今後もつくば市の事業において、協力していただけるか。		93.9%	100.0%	100.0%

### 4 課題と対応

今年度の成果を踏まえ、以下の点が今後の課題として挙げられる。

- ・学習支援が必要な生徒への参加促進
- ・学習チューターの指導力向上と役割の明確化
- ・短期的な意欲向上を学習習慣の定着へとつなげる仕組みづくり
- ・学校との連絡調整を含めた運営体制のさらなる改善

これらの課題に対して、対象生徒の明確化や事前研修の充実、継続的な実施方法の検討等を進め、より効果的な事業運営を目指していく。